

[O] 部門：「法律ラテン語格言集」読解用データ集

目次

- I 重要語一覧
- II 前置詞一覧
- III 接続詞一覧
- IV 副詞一覧
- V 相関語一覧
- VI <ut>の慣用句一覧
- VII 非人称構文一覧
- VIII 絶対的尊格用例一覧

I 重要語一覧

ここで「重要語」というのは、さきの[B]部門に収録した法律ラテン語格言のなかにしばしば登場してくる言葉＝単語——いわば「キーワード」——のことである。本来ならば、<1>から<3855>までの各命題のそれぞれの解説欄のところで、すべての文章構成語について文法的説明をつけておくべきであったが、スペース節約のため、という便宜的な理由で、このような仕分けのやりかたを選ぶことにした。なお、副次的には、このように変化形の仲間を一つのところに集めておけば、たとえば、<āctiō>〔訴権〕という見出し語の名詞が、<āctiōne>・<āctiōnem>・<āctiōnēs>・<āctiōnī>・<āctiōnibus>・<āctiōnum>というように、いくつもの格変化形をもっていることが具体的にこの表ですぐに判明する、という、大きなメリットがある。同じことは、形容詞、代名詞、動詞などの、変化のはげしい言葉についてもあてはまる。

<凡 例>

① 各項目の末尾にある数字（たとえば[22]）は、「辞書」（『羅和辞典』）の末尾におかれている変化表のナンバーである。同様に、たとえば§904は、『新ラテン文法』（松平・国原著）の解説や変化表のナンバーである。もっとも、すべての重要語について、このような指示がつけられている、というわけではない。

② 上記のように数字が示されているさいにも、ときには、具体的に問題となった言葉（見出し語やその変化形）が、そのままの形で、それぞれそれらの変化表に採録されている、ということがない場合があるが、このとき、多少の注意をして頂く必要がある。そうして頂ければ、検索の可能な

領域の幅は大きくなるであろう。

(a) たとえば、<neuter>は、「辞書」の見出し語の欄に<ne-uter>とわかり書きの形が示されているところから知られるように、実は二つの部分からなっているのであるが、これについては、後半部分の<uter>の項——つまり [42] ——が指示されている。<neuter>については、<ne>と<uter>のうちで変化する部分は、<uter>のところだけなので、<neuter>の変化表をわざわざかかげる必要がない。それで、このような扱いになっているわけである。このグループのほかの合成語については、§548注を参照頂きたい。

ついでに、一般的に言えば、二つ以上の構成要素から一つの言葉がなりたっているときには、変化をする構成要素が一つなのか（たとえば、代名詞の<quisque>は<quis>と<que>からなりたっているが、前半部分の<quis>のところだけが変化する）、それとも、それ以上なのか（たとえば<quisquis>（quis-quis）の場合、<quis>と<quis>の二語が連動して動く）、を注意深く観察していかなければならない。この手の問題は、法律ラテン語文法において特別に重要な役割をはたす代名詞の領域で、とくに意識しておいて頂く必要がある。また、合成動詞のさいには、変化しない接頭語などを変化する動詞本体からきりはなして見ていかないと、辞書などにおさめられているベーシックな変化表は使いこなせない。たとえば、§1010の177に見えている<mittō>には、<omittō>など、一一個もの合成動詞が例示されているが、変化表を検索するさいのキーワードは本体の<mittō>であり、各種の接頭語は考慮の外におかれる。さらに言うなら、§998の52の<teneō>の場合には、<contineō>など、六個の合成動詞の中核部分が、その<teneō>ではなくて、<tineō>となっているのも、要注意である。この<teneō>というものの正体は、たとえば<obtimeō>の項目を辞書でひくと、[teneō] という基幹動詞の表示があることから、つきとめられる。つまり、<obtimeō>は<teneō>型の動きをするわけである。

(b) たとえば、<pignus>という名詞については、[23] と §904 とが指示してあるが、まず [23] について見てみよう。そこに見えてくる<tempus>という名詞の変化と、問題の<pignus>の変化とが同じであることをその指示によって示すことにしている（ここには、同タイプの変化を示す、少しちがった形の他の名詞の変化も、あわせて採録されているが）。もっとも、これは、同じように見える<vulnus>の動きとまったく同じ、というわけではない。つまり、<vulnus>は単数属格で<vulneris>となるが、<pignus>の場合、<pignoris>となるのがふつうだからである（もっとも、<pigneris>という別型もあるので、その場合、これとは同じようになる

が)。いずれにしても、<pignus>と<tempus>・<vulnus>とは、第三変化名詞（このタイプの名詞の変化の形態は、第一変化動詞、第二変化動詞の場合とはちがい、かなりはげしくて、変化の正体をつかまえるのに苦労させられる）のグループ（4）の子音幹名詞のうちの擦音幹名詞（§312以下）に属する、ということで（このような文法上の命名は、『新ラテン文法』で用いられる文法的解説であり、辞書にはそのようなものはない）、たがいに同類のものと位置づけられる。なお、名詞、形容詞、代名詞、代名詞的形容詞、分詞、数詞などの、変化をする言葉全般についてあてはまることなのであるが、変化の全体が一目でわかるような表が辞書や文法書についているのはごくわずかのサンプル型の言葉の場合だけなので、読みの現場での手順としては、これらに關係する言葉の変化の姿をよく観察して、そのデータを生かして、頭をやわらかく動かすことにより、目前にある変化詞の具体的な姿形の座標をつきとめて頂くことになる。これは容易な仕事ではない。実際のところ、変化表を使いこなすことができれば、ラテン語の読解能力は飛躍的に上昇する。一方で、『新ラテン文法』の§904には、<pignus>の変化とパラレルな動きをするような言葉は採録されていない。しかし、本文の解説の§226・314には、<corpus>の変化表があって、これは<pignus>の変化の具体像を知るうえで、参考になる。

③ ゴチック体のラテン語にアンダーラインがひいて示してあるとき（たとえば、下の【A】の初めのところにある<accūsātiō>の場合）、それは、見出し語（辞書にそのままの形で収録されているもの）に相当する言葉であり、一方、そうでない場合のものは、変化している形である。後者については、ほとんどの場合、辞書からはストレートにその正体をつきとめることはできない。それでも、この重要語一覧の巨大なデータを使いこなして頂ければ、変化形の正体をつきとめることも少しは楽になってくるのでは、と考えている。もっとも、きわめて重要な法律用語である<jūs>〔法・権利〕の単数奪格形である<jūre>は、副詞としてなら、辞書にちゃんと採録されている。

④ 以下の表には形容詞（分詞）もいくつか採録されているが、これらはそのまま名詞化することがある。本編の各格言命題の解説のところではそのことについてほとんどふれていないが、日本語訳に〔こと〕・〔もの〕という補足の記号付きの言葉がおかれているのがそのことを示す場合が、かなりある。

⑤ 接続法と受動相については表示するが、直説法と能動相については表示しないことにする。もっとも、接続法と直説法の双方のどちらにも属することになる変化形の場合には、必要上、「直説法」という表記も加える。

⑥「法律ラテン語の重要語」と言えば、以下に示す名詞グループ、動詞などのほかに、前置詞、接続詞、副詞もちろんそれに含まれるが、語形変化をしない、これら三品詞に属する各語については、別だてで、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの個所にまとめてあるので、御利用頂きたい。

[A]

accūsāre…<accūsō> [告訴する] ([66以下] §933以下) の現在不定法

accūsāt…<accūsō>の現在三人称単数

accūsātiō… [名詞] [訴追] [22] §269・901

accūsātiōnis…<accūsātiō>の単数属格

accūsātor… [名詞] [訴追者] [22] §901

accūsātōre…<accūsātor>の単数奪格

ācta… [名詞 (複数形)] [行為] (複数の) 主格・対格; <agō> [なす] の完了分詞<āctus> [なされた] の変化形にも、単数女性主格、複数中性の主格・対格のところに、この形がある ([34] §907)。

āctae…完了分詞<āctus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格

āctiō… [名詞] [訴権] [22] §901

āctiōne…<āctiō>の単数奪格

āctiōnem…<āctiō>の単数対格

āctiōnēs…<āctiō>の複数の主格・対格

āctiōnī…<āctiō>の単数与格

āctiōnibus…<āctiō>の複数の与格・奪格

āctiōnum…<āctiō>の複数属格

āctīs…完了分詞<āctus>の複数全性の与格・奪格

āctō…完了分詞<āctus>の単数の男性・中性の与格・奪格

āctor… [名詞] [原告] [22] §901

āctōre…<āctor>の単数奪格

āctōrem…<āctor>の単数対格

āctōrēs…<āctor>の複数の主格・対格

āctōrī…<āctor>の単数与格

āctōris…<āctor>の単数属格

āctū…<āctus> [名詞] の単数奪格 (与格) [28] §390・905; <agō> [なす] の目的分詞 (奪格) にも、この形がある ([89] §568・961)。

āctum…<āctus> [名詞] の単数対格; <agō> [なす] の目的分詞 (対格) にも、この形がある ([89] §568・961)。また、<agō>の完了分詞<āctus>の変化形にも、この形がある。単数男性対格と単数中性の主格・対格にある形がそれである ([34] §907)。さらに、<āctum> ([19] §894)

という名詞（〔行為〕：見出し語および単数対格）もある（辞書参照）。

āctus…〔名詞〕〔行為〕〔28〕§905；<agō>の見出し語完了分詞〔なされた〕（このように、とりわけ重要な完了分詞は、辞書の見出し語としてちゃんと採録されている；そこに見える<p.p.>は完了分詞を示す略語である）も同形である。

āctūs…<āctus>〔名詞〕の単数属格、複数の主格・対格

adsit…<adsum(ad+sum)>〔現存している〕の接続法現在三人称単数（〔116〕§985）

aequī…<aequus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格

aequitās…〔名詞〕〔衡平〕〔24〕§898

aequitāte…<aequitās>の単数奪格

aequitātem…<aequitās>の単数対格

aequitātī…<aequitās>の単数与格

aequitātis…<aequitās>の単数属格

aequō…<aequus>の単数の男性・中性の与格・奪格

aequum…<aequus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

aequus…〔形容詞〕〔衡平な〕〔34〕§907

agās…<agō>の接続法現在二人称単数

agere…<agō>の現在不定法

ageret…<agō>の接続法未完了過去三人称単数

agī…<agō>の受動相現在不定法

agimus…<agō>の現在一人称複数

agit…<agō>の現在三人称単数

agitur…<agō>の受動相現在三人称単数

agō…〔動詞〕〔行なう〕〔82以下〕§933以下

alia…<alius>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

aliā…<alius>の単数女性奪格；副詞

alicui…<aliquis>の単数全性与格；<aliquī>（不定形容詞）〔ある〕の単数全性属格

alicūjus…<aliquis>の単数全性属格〔65〕§925

aliēna…<aliēnus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

aliēnā…<aliēnus>の単数女性奪格

aliēnae…<aliēnus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格

aliēnam…<aliēnus>の単数女性対格

aliēnāre…<aliēnō>…〔動詞〕〔譲る〕の現在不定法〔70〕§956以下

aliēnārī…<aliēnō>の受動相現在不定法

aliēnat…<aliēnō>の現在三人称単数

aliēnō…<**aliēnus**>の単数の男性・中性の与格・奪格；この形は動詞〔譲る〕
の見出し語にもある。〔66以下〕 §933以下

aliēnum…<**aliēnus**>の単数男性対格・中性単数の主格・対格

aliēnus…〔形容詞〕〔他の〕〔34〕 §907

aliī…<**alius**>の単数全性の与格、複数男性主格

aliīs…<**alius**>の複数全性の与格・奪格

aliō…<**alius**>の単数の男性・中性の奪格；副詞

aliōrum…<**alius**>の複数の男性・中性の属格

aliōs…<**alius**>の複数男性対格

aliqua…<**aliquī**>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

aliquā…<**aliquī**>の単数女性奪格

aliquī…〔不定形容詞〕〔ある〕〔65〕 §925；cf.<**aliquis**>

aliquid…<**aliquis**>の単数中性の主格・対格

aliquis…〔不定代名詞〕〔ある人〕〔65〕 §925；この不定代名詞<**aliquis**>
と「ある～」を意味する不定形容詞<**aliquī**>とは、部分的に似た変化
形を多くもつ

aliquō…<**aliquis**>の単数全性奪格、<**aliquī**>の単数の男性・中性の奪格

aliquod…<**aliquī**>の単数中性の主格・対格

aliud…<**alius**>の単数中性の主格・対格

aliū…<**alius**>の単数男性対格

alius…〔代名詞的形容詞〕〔他の〕〔41〕 §928

alter…〔代名詞的形容詞〕〔二つのうちの一方の〕〔43〕 §929

altera…<**alter**>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

alterā…<**alter**>の単数女性奪格

alteram…<**alter**>の単数女性対格

alterī…<**alter**>の単数全性主格、複数男性主格

alterīus…<**alter**>の単数全性属格

alterō…<**alter**>の単数の男性・中性の奪格

alterum…<**alter**>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

alterutrum…<**alteruter**>〔代名詞的形容詞〕〔二つのうちの一方の〕〔42〕
§929)の単数男性対格、単数中性の主格・対格；前半部分の<**alter**>
のところは変化しない。

[B]

bona…<**bonus**>の単数女性主格、複数中性の主格・対格〔34〕 §907；複数
形の名詞<**bona**>〔財産〕の変化形（主格・対格）にもこの形がある。

bonā…<**bonus**>の単数女性奪格

bonae…〈bonus〉の単数女性の属格・与格、複数女性主格

bonam…〈bonus〉の単数女性対格

bonī…〈bonus〉の単数の男性・中性の属格、複数男性主格

bonīs…〈bonus〉の複数全性の与格・奪格

bonō…〈bonus〉の単数の男性・中性の与格

bonōrum…〈bonus〉の複数の男性・中性の属格

bonōs…〈bonus〉の複数男性対格

bonum…〈bonus〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格；この形は名詞
（「善」）にもある。その見出し語と単数対格の形がそれである。

bonus…〔形容詞〕〔よい〕〔34〕§907

[C]

cāsibus…〈cāsus〉の複数の与格・奪格

cāsū…〈cāsus〉の単数奪格

cāsum…〈cāsus〉の単数対格

cāsus…〔名詞〕〔原因〕〔28〕§905；長音ぬきでは、単数属格と複数の主格・対格で同形となる。

cāsūs…〈cāsus〉の単数属格、複数の主格・対格

cāsuum…〈cāsus〉の複数属格

causa…〔名詞〕〔事変〕〔17〕§893

causā…〈causa〉の単数奪格

causae…〈causa〉の単数の属格・与格、複数主格

causam…〈causa〉の単数対格

causās…〈causa〉の複数対格

causīs…〈causa〉の複数の与格・奪格

cēnsentur…〈**cēnseō**〉（動詞）〔考える〕〔74以下〕§933以下の受動相現在三人称複数

cēnsērī…〈cēnseō〉の受動相現在不定法

cēnsētur…〈cēnseō〉の受動相現在三人称単数

certa…〈certus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格

certae…〈certus〉の単数女性の属格・与格、複数女性主格

certam…〈certus〉の単数女性対格

certārum…〈certus〉の複数女性属格

certī…〈certus〉の単数の男性・中性の属格、複数男性主格

certīs…〈certus〉の複数全性の与格・奪格

certissima…〈certus〉の最上級〈**certissimus**〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格

certissimō…<certus>の最上級<certissimus>の単数の男性・中性の与格・奪格

certō…<certus>の単数の男性・中性の与格・奪格

certum…<certus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

certus…〔形容詞〕〔たしかな〕〔34〕§907

cīve…<cīvis>の単数奪格

cīvem…<cīvis>の単数対格

cīvīle…<cīvīlis>の単数中性の主格・対格

cīvīlem…<cīvīlis>の単数の男性・女性の対格

cīvīlēs…<cīvīlis>の複数の男性・女性的主格・対格

cīvīlī…<cīvīlis>の単数全性の与格・奪格

cīvīlibus…<cīvīlis>の複数全性の与格・奪格

cīvīlis…〔形容詞〕〔市民の〕〔36〕§910、単数全性属格

cīvis…〔名詞〕〔市民〕〔25〕§896

cīvium…<cīvis>の複数属格

cōgēmus…<cōgō>の未来一人称複数

cōgentur…<cōgō>の受動相未来三人称複数

cōgere…<cōgō>の現在不定法

cōgī…<cōgō>の受動相現在不定法

cōgit…<cōgō>の現在三人称単数

cōgitur…<cōgō>の受動相現在三人称単数

cōgnitiō…〔名詞〕〔審理〕〔22〕§901

cōgō…〔動詞〕〔強制する〕〔82以下〕§933以下

commūne…<commūnis>の単数中性の主格・対格

commūnem…<commūnis>の単数対格

commūnī…<commūnis>の単数全性の与格・奪格

commūnia…<commūnis>の複数中性の主格・対格

commūnis…〔形容詞〕〔共通の〕〔36〕§910、単数全性属格

conditiō(condiciō)…〔名詞〕〔条件〕〔22〕§901

conditiōne(condiciōne)…<conditiō(condiciō)>の単数奪格

conditiōnem(condiciōnem)…<conditiō(condiciō)>の単数対格

conditiōnēs(condiciōnēs)…<conditiō(condiciō)>の複数の主格・対格

conditiōnis(condiciōnis)…<conditiō(condiciō)>の単数属格

conditiōnī(condiciōnī)…<conditiō(condiciō)>の単数与格

cōnfessiō…〔名詞〕〔自白〕〔22〕§901

cōnfessiōnis…<cōnfessiō>の単数属格

cōnsēnsū…<cōnsēnsus>の単数奪格

cōnsēnsuī…<cōnsēnsus>の単数与格

cōnsēnsūm…<cōnsēnsus>の単数対格

cōnsēnsus… [名詞] [合意] [28] §905、<cōnsentiō> [同意する] の見出し語完了分詞 [同意された]

cōnsēnsūs…<cōnsēnsus>の単数属格、複数の主格・対格

cōnsentiō(cōn+sentio)… [動詞] [同意する] [90以下] §933以下

cōnsentiōre…<cōnsentiō>の現在不定法

cōnsentiunt…<cōnsentiō>の現在三人称複数

cōnstant…<cōnstō>の現在三人称複数

cōnstat…<cōnstō>の現在三人称単数

cōnstāre…<cōnstō>の現在不定法

cōnstet…<cōnstō>の接続法現在三人称複数

cōnstō(cōn+stō)… [動詞] [なりたつ] [66以下] §933以下

cōnsuētūdine…<cōnsuētūdō>の単数奪格

cōnsuētūdinem…<cōnsuētūdō>の単数対格

cōnsuētūdini…<cōnsuētūdō>の単数与格

cōnsuētūdinis…<cōnsuētūdō>の単数属格

cōnsuētūdō… [名詞] [慣習] [22] §903

contractibus…<contractus>の複数の与格・奪格

contractū…<contractus>の単数奪格 (与格)

contractuī…<contractus>の単数与格

contractus… [名詞] [契約] [28] §905、<contrāhō> [結ぶ] の見出し語完了分詞 [結ばれた]

contractūs…<contractus>の単数属格、複数の主格・対格

contrāhere…<contrāhō>の現在不定法

contrāhī…<contrāhō>の受動相現在不定法

contrāhit…<contrāhō>の現在三人称単数

contrāhitur…<contrāhō>の受動相現在三人称単数

contrāhō… [動詞] [契約する] [82以下] §933以下

contrāxit…<contrāhō>の完了三人称単数

convēnerit…<conveniō>の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

conveniō… [動詞] [合意する] [90以下] §933以下

convenit…<conveniō>の現在三人称単数；長音符がつかない表示方式においては、この形は現在三人称単数と完了三人称単数とで、同形である。

<solvit>などの場合も、同様である。

conventiō… [名詞] [合意] [22] §901

conventiōne…〈conventiō〉の単数奪格
 conventiōnem…〈conventiō〉の単数対格
 conventiōnibus…〈conventiō〉の複数の与格・奪格
 crēdere…〈crēdō〉の現在不定法
 crēdī…〈crēdō〉の受動相現在不定法
crēditor…〔名詞〕〔債権者〕〔22〕§901
 crēditōre…〈crēditor〉の単数奪格
 crēditōrem…〈crēditor〉の単数対格
 crēditōrī…〈crēditor〉の単数与格
 crēditōribus…〈crēditor〉の複数の与格・奪格
 crēditōris…〈crēditor〉の単数属格
 crēditōrum…〈crēditor〉の複数属格
 crēditur…〈crēdō〉の受動相現在三人称単数
crēdō…〔動詞〕〔信ずる〕〔98以下〕§933以下
 crēduntur…〈crēdō〉の受動相現在三人称複数
crīmen…〔名詞〕〔罪〕〔23〕§903
 crīmina…〈crīmen〉の複数の主格・対格
 crīminālibus…〈crīminālis〉の複数全性の与格・奪格
crīminālis…〔形容詞〕〔刑事の〕〔36〕§910、単数全性属格
 crīmine…〈crīmen〉の単数奪格
 crīminis…〈crīmen〉の単数属格
 cui…〈quī〉の単数全性属格
 cuicumque…〈quicumque〉の単数全性属格
 cuique…〈quisque〉の単数全性属格
 cuilibet…〈quilibet〉の単数全性属格
 cūjus…〈quī〉の単数全性属格、疑問代名詞
 cūjuscumque…〈quicumque〉の単数全性属格
 cūjuslibet…〈quilibet〉の単数全性属格
 cūjusque…〈quisque〉の単数全性属格
 cūjuscūis…〈quīvis〉の単数全性属格
culpa…〔名詞〕〔過失〕〔17〕§893
 culpā…〈culpa〉の単数奪格
 culpae…〈culpa〉の単数の属格・与格、複数主格
 culpam…〈culpa〉の単数対格

[D]

dā…〈dō〉の命令法現在二人称単数

dabit…<dō>の未来三人称単数
 dabō…<dō>の未来一人称単数
 damna…<damnum>の複数の主格・対格
 damnī…<damnum>の単数属格
 damnō…<damnum>の単数の与格・奪格
damnum…[名詞][損害][19] §894、単数対格
 dant…<dō>の現在三人称複数
 dantur…<dō>の受動相現在三人称複数
 dare…<dō>の現在不定法
 darī…<dō>の受動相現在不定法
 dās…<dō>の現在二人称単数
 dat…<dō>の現在三人称単数
 data…<datum>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 datae…<datum>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
 datam…<datum>の単数女性対格
 datī…<datum>の単数属格；<datum>という完了分詞の変化形（単数の男性・中性の属格、複数男性主格）にも、この形がある。[34] §907
 datō…<dō>の命令法未来の二人称・三人称の単数；<datum>という完了分詞の変化形（単数の男性・中性の与格・奪格）にも、この形がある。
 [34] §907
datum…[名詞][贈物][19] §894、単数対格；<datum>という完了分詞の変化形（単数男性対格、単数中性の主格・対格）にも、この形がある。
 [34] §907
 datur…<dō>の受動相現在三人称単数
datum…<dō>の見出し語完了分詞[与えられた][34] §907
 dēbeat…<dēbeō>の接続法現在三人称単数
 dēbeat…<dēbeō>の未完了過去三人称単数
 dēbeat…<dēbeō>の未来三人称単数
 dēbēmus…<dēbeō>の現在一人称複数
 dēbentur…<dēbeō>の受動相現在三人称複数
dēbeō…[動詞][～なければならない][74以下] §933以下
 dēbēre…<dēbeō>の現在不定法
 dēbēret…<dēbeō>の接続法未完了過去三人称単数
 dēbēs…<dēbeō>の現在二人称単数
 dēbet…<dēbeō>の現在三人称単数
 dēbētis…<dēbeō>の現在二人称複数
 dēbētur…<dēbeō>の受動相現在三人称単数

dēbita…<dēbitus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 dēbitae…<dēbitus>の単数女性の与格・奪格、複数女性主格
 dēbitam…<dēbitus>の単数女性対格
 dēbitī…<dēbitum>の単数属格
 dēbitīs…<dēbitus>の複数全性の与格・奪格
dēbitor…[名詞][債務者][22] §901
 dēbitōre…<dēbitor>の単数奪格
 dēbitōrem…<dēbitor>の単数対格
 dēbitōrēs…<dēbitor>の複数の主格・対格
 dēbitōribus…<dēbitor>の複数の与格・奪格
 dēbitōris…<dēbitor>の単数属格
 dēbitōrum…<dēbitor>の複数属格
dēbitum…[名詞][債務][19] §894、単数対格
dēbitus…[形容詞][負われた]、<dēbeō>の見出し語完了分詞[負われた]
 [34] §907
 dēbuisset…<dēbeō>の接続法過去完了三人称単数
 dēbuit…<dēbeō>の完了三人称単数
 dēderit…<dō>の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数
 dēdisse…<dō>の完了不定法
 dēdit…<dō>の完了三人称単数
 Deī…<Deus>の単数属格、複数主格
 dēlāta…<dēferō>[付与する]の完了分詞<dēlātus>の単数女性主格、複数
 中性の主格・対格
 dēlicta…<dēlictum>の複数の主格・対格
 dēlictī…<dēlictum>の単数属格
 dēlictīs…<dēlictum>の複数の与格・奪格
 dēlictō…<dēlictō>の単数の与格・奪格
dēlictum…[名詞][不法行為][19] §894、単数対格；<delinquō>[犯す]
 の見出し語完了分詞<dēlictus>[犯された]の単数男性対格、複数中
 性の主格・対格 [34] §907
 dentur…<dō>の接続法受動相現在三人称複数
 Deō…<Deus>の単数の与格・奪格
 dēs…<dō>の接続法現在二人称単数
 det…<dō>の接続法現在三人称単数
dēterior…[形容詞比較級][いっそう悪い][45] §914
 dēteriōra…<dēterior>の複数中性の主格・対格
 dēteriōrem…<dēterior>の単数の男性・女性の対格

dētur…<dō>の接続法受動相現在三人称単数

Deum…<Deus>の単数対格

Deus…[名詞][神][18] §894

dīcat…<dīcō>の接続法現在三人称単数

dīcere…<dīcō>の現在不定法

dīcī…<dīcō>の受動相現在不定法

dīcimus…<dīcō>の現在一人称複数

dīcit…<dīcō>の現在三人称単数

dīcitur…<dīcō>の受動相現在三人称単数

dīcō…[動詞][言う][82以下] §933以下

dicta…<dictus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

dictō…<dictus>の単数の男性・中性の与格・奪格

dictum…<dictus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格；名詞<dictum>
[言説]、単数対格

dictus…<dīcō>の見出し語完了分詞[言われた][34] §907

dīcuntur…<dīcō>の受動相現在三人称複数

dīxerit…<dīcō>の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

dīxisse…<dīcō>の完了不定法

dīxit…<dīcō>の完了三人称単数

dō…[動詞][与える][不規則動詞][66以下] §987

dolī…<dolus>の単数属格、複数主格

dolō…<dolus>の単数の与格・奪格

dolum…<dolus>の単数対格

dolus…[名詞][悪意][18] §894

dominī…<dominus>の単数属格、複数主格

dominia…<dominium>の複数の主格・対格

dominī…<dominium>の単数属格

dominīs…<dominus>の複数の与格・奪格

dominium…[名詞][所有権][19] §894、単数対格

dominō…<dominus>の単数の与格・奪格

dominōrum…<dominus>の複数属格

dominus…[名詞][主人][18] §894

dōnāre…<dōnō>の現在不定法

dōnārī…<dōnō>の受動相現在不定法

dōnāsse(dōnāvisse)…<dōnō>の完了不定法 [70] §956 (§213)

dōnātiō…[名詞][贈与][22] §901

dōnātiōne…<dōnātiō>の単数奪格

dōnātiōnem…<dōnātiō>の単数対格
dōnātiōnēs…<dōnātiō>の複数の主格・対格
dōnātiōnī…<dōnātiō>の単数与格
dōnātiōnis…<dōnātiō>の単数属格
dōnātiōnum…<dōnātiō>の複数属格
dōnātor…〔名詞〕〔贈与者〕〔22〕§901
dōnātōrem…<dōnātor>の単数対格
dōnātōrī…<dōnātor>の単数与格
dōnō…〔動詞〕〔与える〕〔66以下〕§933以下
duābus…<duo>の（複数）女性の与格・奪格
duae…<duo>の（複数）女性主格
duārum…<duo>の（複数）女性属格
duās…<duo>の（複数）女性対格
dubia…<dubius>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
dubiā…<dubius>の単数女性奪格
dubiam…<dubius>の単数女性対格
dubiīs…<dubius>の複数全性の与格・奪格
dubiō…<dubius>の単数の男性・中性の与格・奪格
dubium…<dubius>の単数男性対格、単数中性の主格・対格；名詞〔疑問〕
（見出し語および単数対格）
dubius…〔形容詞〕〔疑問ののこる〕〔34〕§907
duo…〔数詞〕〔二つの〕〔50〕§931
duōbus…<duo>の（複数の）男性・中性の与格・奪格
duōrum…<duo>の（複数の）男性・中性の属格
duōs…<duo>の（複数の）男性対格

[E]

ea…<is>の単数女性主格、複数女性の主格・対格
eā…<is>の単数女性奪格
eadem…<idem>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
eādem…<idem>の単数女性奪格
eam…<is>の単数女性対格
eandem…<idem>の単数女性対格
eārum…<is>の複数女性属格
eās…<is>の複数女性対格
eāsdem…<idem>の複数女性対格
effectū…<effectus>の単数奪格（与格）

effectum…<effectus>の単数対格

effectus… [名詞] [効果] [28] §905 ; 長音符ぬきでは、単数属格と複数の主格・対格のところで、同形となる ; <efficiō> [もたらす] の見出し語完了分詞 [もたらされた]

ēgerint…<agō>の直説法未来完了三人称複数、接続法完了三人称複数

eī…<is>の単数全性属格、複数男性主格

eīdem…<idem>の単数全性属格、複数男性主格

eīs…<is>の複数全性の与格・奪格

ējus…<is>の単数全性属格

ējusdem…<idem>の単数全性属格

emptiō(emptiō)… [名詞] [購入] [22] §901

emptiōnem(emptiōnem)…<emptiō(emptiō)>の単数対格

emptiōnī(emptiōnī)…<emptiō(emptiō)>の単数与格

emptiōnis(emptiōnis)…<emptiō(emptiō)>の単数属格

emptīs(emptīs)…<emptiō(emptiō)>の複数の与格・奪格

emptor(emptor)… [名詞] [買主] [22] §901

emptōrem(emptōrem)…<emptor(emptor)>の単数対格

emptōrī(emptōrī)…<emptor(emptor)>の単数与格

emptōris(emptōris)…<emptor(emptor)>の単数属格

eō…<is>の単数の男性・中性の奪格

eōdem…<idem>の単数の男性・中性の奪格

eōs…<is>の複数男性対格

erat…<sum>の未完了過去三人称単数

eris…<sum>の未来二人称単数

erit…<sum>の未来三人称単数

errāns…<errō>の見出し語現在分詞

errant…<errō>の現在三人称複数

errantī…<errāns>の単数全性属格

errantis…<errāns>の単数全性属格

errāre…<errō>の現在不定法

errat…<errō>の現在三人称単数

errātur…<errō>の受動相現在三人称単数

errāverit…<errō>の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

errō… [動詞] [誤まる] [66以下] §933以下

error… [名詞] [誤まり] [22] §901

errōrem…<error>の単数対格

errōrēs…<error>の複数の主格・対格

errōrī…〈error〉の単数与格
 errōribus…〈error〉の複数の与格・奪格
 errōris…〈error〉の単数属格
 es…〈sum〉の現在二人称単数
 esse…〈sum〉の現在不定法
 essent…〈sum〉の接続法未完了過去三人称複数
 esset…〈sum〉の接続法未完了過去三人称単数
 est…〈sum〉の現在三人称単数
 estō…〈sum〉の命令法未来の二人称・三人称の単数
 eum…〈is〉の単数男性対格
 eundem…〈īdem〉の単数男性対格
 exceptiō…〔名詞〕〔抗弁〕〔22〕§901
 exceptiōne…〈exceptiō〉の単数奪格
 exceptiōnem…〈exceptiō〉の単数対格
 exceptiōnēs…〈exceptiō〉の複数の主格・対格
 exceptiōnibus…〈exceptiō〉の複数の与格・奪格
 exterior…〔形容詞（〈exter〉〔外の〕の比較級）〕〔いっそう外の〕〔45〕§914
 exteriōra…〈exterior〉の複数中性の主格・対格

[F]

facere…〈faciō〉の現在不定法
 faciās…〈faciō〉の接続法現在二人称単数
 faciat…〈faciō〉の接続法現在三人称単数
 faciēs…〈faciō〉の未来二人称単数；動詞〈faciō〉に由来する名詞として、
 〈faciēs〉〔顔〕の形がある。
 faciō…〔動詞〕〔つくる〕〔82以下〕§933以下
 faciunt…〈faciō〉の現在三人称複数
 facta…〈factus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格；名詞〈factum〉の
 複数の主格・対格
 factae…〈factus〉の単数女性の属格・与格、複数女性主格
 factī…〈factum〉の単数属格、完了分詞〈factus〉の単数の男性・中性の属格、
 複数男性主格
 factiō…〔名詞〕〔行為〕〔22〕§901
 factīs…〈factum〉の複数の与格・奪格
 factō…〈factum〉の単数の与格・奪格、完了分詞〈factus〉の単数の男性・中
 性の与格・奪格
 factum…〔名詞〕〔行為・捺印証書〕〔19〕§894、単数対格；完了分詞〈factus〉

の単数男性対格、単数中性の主格・対格

factus…〈**faciō**〉の見出し語完了分詞〔なされた〕[34] §907

fēcerat…〈**faciō**〉の過去完了三人称単数

fēceris…〈**faciō**〉の直説法未来完了二人称単数、接続法完了二人称単数

fēcerit…〈**faciō**〉の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

fēcī…〈**faciō**〉の完了一人称単数

fēcisse…〈**faciō**〉の完了不定法

fēcisset…〈**faciō**〉の接続法過去完了三人称単数

fiant…〈**fiō**〉の接続法現在三人称複数

fiat…〈**fiō**〉の接続法現在三人称単数

fidē…〈**fidēs**〉の（単数の）奪格

fidēī…〈**fidēs**〉の（単数の）属格・与格

fidem…〈**fidēs**〉の（単数の）対格

fidēs…〔名詞〕（複数形はない）[信義][29] §906

fieret…〈**fiō**〉の接続法未完了過去三人称単数

fieri…〈**fiō**〉の現在不定法（受動相）

fiō…〔不規則動詞〕[生ずる・なされる][153以下] §990

fit…〈**fiō**〉の現在三人称単数

fiunt…〈**fiō**〉の現在三人称複数

fōrma…〔名詞〕[形式][17] §893

fōrmā…〈**fōrma**〉の単数奪格

fōrmae…〈**fōrma**〉の単数の属格・与格、複数主格

fōrmam…〈**fōrma**〉の単数対格

fuerint…〈**sum**〉の直説法未来完了三人称複数、接続法完了三人称複数

fuerit…〈**sum**〉の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

fuērunt(fuēre)…〈**sum**〉の完了三人称複数；〈**fuēre**〉はその別型である。

§210・212

fuisse…〈**sum**〉の接続法過去完了三人称単数

fuit…〈**sum**〉の完了三人称単数

futūra…〈**sum**〉の未来分詞〈**futūrus**〉〔であろう〕の単数女性主格、複数中性の主格・対格

futūrum…〈**futūrus**〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格；〔名詞〕〔未来〕、見出し語および単数対格

[G]

genera…〈**genus**〉の複数の主格・対格

generāle…〈**generālis**〉の単数中性の主格・対格

generālem…〈generālis〉の単数の男性・女性の対格
 generālī…〈generālis〉の単数全性の与格・奪格
 generālīa…〈generālis〉の複数中性の主格・対格
 generālībus…〈generālis〉の複数全性の与格・奪格
generālis…〔形容詞〕〔一般的な〕〔36〕§910
 genere…〈genus〉の単数奪格
 generī…〈genus〉の単数与格
 generibus…〈genus〉の複数の与格・奪格
 generis…〈genus〉の単数属格
genus…〔名詞〕〔種類〕〔23〕§904
 gestum…〈gerō〉〔行なう〕の完了分詞〈gestus〉〔行なわれた〕の単数男性
 対格、単数中性の主格・対格

[H]

habeās…〈habeō〉の接続法現在二人称単数
 habeat…〈habeō〉の接続法現在三人称単数
 habebātur…〈habeō〉の受動相未完了過去三人称単数
 habēmus…〈habeō〉の現在一人称複数
 habent…〈habeō〉の現在三人称複数
 habentur…〈habeō〉の受動相現在三人称複数
habeō…〔動詞〕〔もつ〕〔74以下〕§933以下
 habēre…〈habeō〉の現在不定法
 habēret…〈habeō〉の接続法未完了過去三人称単数
 habērī…〈habeō〉の受動相現在不定法
 habētur…〈habeō〉の受動相現在三人称単数
 habet…〈habeō〉の現在三人称単数
 habitūrum…〈habeō〉の未来分詞〈habitūrus〉〔もつであろう〕の単数男性
 対格、単数中性の主格・対格
 habuerat…〈habeō〉の過去完了三人称単数
 habuerit…〈habeō〉の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数
 hāc…〈hīc〉の単数女性奪格
 haec…〈hīc〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 hērēde(haerēde)…〈hērēs(haerēs)〉の単数奪格
 hērēdem(haerēdem)…〈hērēs(haerēs)〉の単数対格
 hērēdēs(haerēdēs)…〈hērēs(haerēs)〉の複数の主格・対格
 hērēdī(haerēdī)…〈hērēs(haerēs)〉の単数与格
 hērēdis(haerēdis)…〈hērēs(haerēs)〉の単数属格

hērēditās(haerēditās)… [名詞] [相続] [24] §898

hērēditāte(haerēditāte)… <hērēditās(haerēditās)>の単数奪格

hērēditātem(haerēditātem)… <hērēditās(haerēditās)>の単数対格

hērēditātibus(haerēditātibus)… <hērēditās(haerēditās)>の複数の与格・奪格

hērēs(haerēs)… [名詞] [相続人] [24] §898

hī… <hīc>の複数男性主格

hīc… [指示代名詞] [これ、この] [53] §918

hīs… <hīc>の複数全性の与格・奪格

hoc… <hīc>の単数中性の主格・対格

hōc… <hīc>の単数の男性・中性の奪格

homine… <homō>の単数奪格

hominem… <homō>の単数対格

hominēs… <homō>の複数の主格・対格

hominibus… <homō>の複数の与格・奪格

hominis… <homō>の単数属格

hominum… <homō>の複数属格

homō… [名詞] [人] [22] §157・901

huic… <hīc>の単数全性与格

hūjus… <hīc>の単数全性属格

hunc… <hīc>の単数男性対格

[I]

īdem… [指示代名詞] [同じ] [57] §921 ; 単数中性の主格・対格にも同形がある。もっとも、『辞書』[57] および『新ラテン文法』§921の表には、その長音の形 (īdem) が単数男性主格のところにあるが、単数中性の主格・対格のところにはない。ふつうの文章には母音に長音符はついていないので、これらは同形となる。

īīs… <is>の複数全性の与格・奪格

īīsdem… <īdem>の複数全性の与格・奪格

illa… <ille>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

ille… [指示代名詞] [あれ] [55] §919

illī… <ille>の単数全性与格、複数男性主格

illīs… <ille>の複数全性の与格・奪格

illīus… <ille>の単数全性属格

illō… <ille>の単数の男性・中性の奪格

illōrum… <ille>の複数の男性・中性の属格

illud…<ille>の単数中性の主格・対格

illum…<ille>の単数男性対格

impossibile…<impossibilis>の単数中性の主格・対格

impossibilī…<impossibilis>の単数全性の与格・奪格

impossibilia…<impossibilis>の複数中性の主格・対格

impossibilis…〔形容詞〕〔不可能な〕〔36〕§910、単数全性属格

impossibilitās…〔名詞〕〔不可能〕〔24〕§898

impossibilitātem…<impossibilitās>の単数対格

impossibilitātī…<impossibilitās>の単数与格

impossibilia…<impossibilis>の複数全性の属格

Inferior…〔形容詞（<inferus>〔下の〕の比較級）〕〔いっそう下の〕〔45〕

§914

Inferiōrem…<inferior>の単数男性対格

Inferiorēs…<inferior>の複数の男性・女性的主格・対格

Inferiōrī…<inferior>の単数全性の与格

injūria…〔名詞〕〔不法〕〔17〕§893

injūriā…<injūria>の単数奪格

injūriae…<injūria>の単数の属格・与格、複数主格

injūriam…<injūria>の単数対格

injūriarum…<injūria>の複数属格

injūsta…<injūstus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

injūstī…<injūstus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格

injūstīs…<injūstus>の複数全性の与格・奪格

injūstum…<injūstus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

injūstus…〔形容詞〕〔不公正な〕〔34〕§907

intelle(i)gat…<intelle(i)gō>の接続法現在三人称単数

intelle(i)gere…<intelle(i)gō>の現在不定法

intelle(i)gī…<intelle(i)gō>の受動相現在不定法

intelle(i)gitur…<intelle(i)gō>の受動相現在三人称単数

intelle(i)gō…〔動詞〕〔理解する〕〔82以下〕§933以下

intelle(i)gunt…<intelle(i)gō>の現在三人称複数

intelle(i)guntur…<intelle(i)gō>の受動相現在三人称複数

interest(inter+est)…〔非人称動詞〕〔大切である〕（現在三人称単数の形）

interior…〔副詞<in>・<intrā>に由来する比較級〕…〔形容詞〕〔いっそう

内の〕〔45〕§914

interiōra…<interior>の複数中性の主格・対格

interpretātiō…〔名詞〕〔解釈〕〔22〕§901

interpretātiōne…<interpretātiō>の単数奪格
 interpretātiōnem…<interpretātiō>の単数対格
 interpretātiōnēs…<interpretātiō>の複数の主格・対格
 interpretātiōnī…<interpretātiō>の単数与格
 interpretātiōnīs…<interpretātiō>の単数属格
 intersit…<intersum>(inter+sum) [異なっている] の接続法現在三人称単数
 ipsa…<ipse>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 ipsā…単数女性奪格
 ipsam…<ipse>の単数女性属格
 ipsārum…<ipse>の複数女性属格
 ipsās…<ipse>の複数女性対格
 ipse… [強意代名詞] [それ自身] [58] §922
 ipsīs…<ipse>の複数全性の与格・奪格
 ipsīus…<ipse>の単数全性属格
 ipsō…<ipse>の単数の男性・中性の奪格
 ipsōrum…<ipse>の複数の男性・中性の属格
 ipsum…<ipse>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
 is… [指示代名詞] [それ] [56] §134・917
 is…<is>の複数全性の与格・奪格
 ista…<iste>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 istā…<iste>の単数女性奪格
 iste… [指示代名詞] [それ] [54] §920

[J]

iubeō… [動詞] [命ずる] [74以下] §933以下
 jubet…<jubeō>の現在三人称単数
 iudex… [名詞] [裁判官] [24] §898
 iudicantur…<judicō>の受動相現在三人称複数
 iudicāre…<judicō>の現在不定法
 iudicat…<judicō>の現在三人称単数
 iudicāta…<judicātus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 iudicātam…<judicātus>の単数女性対格
 iudicātās…<judicātus>の複数女性対格
 iudicātīs…<judicātus>の複数全性の与格・奪格；<judicō>の現在二人称単数に<judicātis>という形がある（<i>のところは長音ではない）
 iudicātō…<judicātus>の単数の男性・中性の与格・奪格；この形は名詞

<jūdicātum> [判決] の変化形（単数の与格・奪格）と同形である。
jūdicātum…<jūdicātus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格；この形
は見出し語名詞<jūdicātum> [判決] およびその単数対格と同じであ
る。

jūdicātur…<jūdicō>の受動相現在三人称単数

jūdicātus…<jūdicō>の見出し語完了分詞 [判定された] [34] §907

jūdice…<jūdex>の単数奪格

jūdicem…<jūdex>の単数対格

jūdicēs…<jūdex>の複数の主格・呼格・対格；この形は<jūdicō>という動詞
の変化形（接続法現在二人称単数）と同じである。

jūdicet…<jūdicō>の接続法現在三人称単数

jūdicētur…<jūdicō>の接続法受動相現在三人称単数

jūdicī…<jūdex>の単数与格

jūdicia…<jūdicium>の複数の主格・対格

jūdiciale…<jūdicialis>の単数中性の主格・対格

jūdicialis… [形容詞] [裁判の] [36] §910、単数全性属格

jūdicārius… [形容詞] [裁判の] [34] §907

jūdicibus…<jūdex>の複数の与格・奪格

jūdicī…<jūdicium>の単数属格

jūdicīs…<jūdicium>の複数の与格・奪格

jūdicīō…<jūdicium>の単数の与格・奪格

jūdicīōrum…<jūdicium>の複数属格

jūdicis…<jūdex>の単数属格

jūdicium… [名詞] [裁判] [19] §894、単数対格

jūdicō… [動詞] [裁く] [66] §933以下

jūdicum…<jūdex> [裁判官] の複数属格

jūra…<jūs>の複数の主格・対格

jūre…<jūs>の単数奪格

jūrī…<jūs>の単数与格

jūridicus… [形容詞] [法上の] [34] §907

jūris…<jūs>の単数属格

jūrisdictiō… [名詞] [裁判権] [22] §269・901

jūrisdictiōnem…<jūrisdictiō>の単数対格

jūrisdictiōnī…<jūrisdictiō>の単数与格

jūs… [名詞] [法（・権利）] [23] §312・904、単数対格

jūsta…<jūstus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

jūstā…<jūstus>の単数女性奪格

jūstae…<jūstus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
jūstam…<jūstus>の単数女性対格
jūsti…<jūstus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
jūsticiāriōrum…<jūsticiārius>〔裁判上の〕〔34〕§907の複数男性・中性の属格
justīs…<jūstus>の複数全性の与格・奪格
jūstitia(jūsticia)…〔名詞〕〔正義〕〔17〕§893
jūstitiā(jūsticiā)…<jūstitia(jūsticia)>の単数奪格
jūstitiae(jūsticiae)…<jūstitia(jūsticia)>の単数の属格・与格、複数主格
jūstitiam(jūsticiam)…<jūstitia(jūsticia)>の単数対格
jūstō…<jūstus>の単数の男性・中性の与格・奪格
jūstum…<jūstus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
jūstus…〔形容詞〕〔公正な〕〔34〕§907

[L]

lēgāle…<lēgālis>の単数中性の主格・対格
lēgālī…<lēgālis>の単数全性の与格・奪格
lēgālis…〔形容詞〕〔適法な〕〔36〕§910、単数全性属格
lēgē…<lēx>の単数奪格
lēgem…<lēx>の単数対格
lēgēs…<lēx>の複数の主格・対格
lēgī…<lēx>の単数与格
lēgibus…<lēx>の複数の与格・奪格
lēgis…<lēx>の単数属格
lēgitima…<lēgitimus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
lēgitimā…<lēgitimus>の単数女性奪格
lēgitimae…<lēgitimus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
lēgitimam…<lēgitimus>の単数女性対格
lēgitimī…<lēgitimus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
lēgitimīs…<lēgitimus>の複数全性の与格・奪格
lēgitimō…<lēgitimus>の単数の男性・中性の与格・奪格
lēgitimōs…<lēgitimus>の複数男性対格
lēgitimus…〔形容詞〕〔適法な〕〔34〕§907
lēgum…<lēx>の複数属格
lēx…〔名詞〕〔法律（法）〕〔24〕§157・898
libertās…〔名詞〕〔自由〕〔26〕§898
libertāte…<libertās>の単数奪格

lībertātem…<lībertās>の単数対格
 lībertātēs…<lībertās>の複数の主格・対格
 lībertātī…<lībertās>の単数与格
 lībertātīs…<lībertās>の単数属格
 liceant…<licet>の接続法現在三人称複数
 liceat…<licet>の接続法現在三人称単数
 licēbit…<licet>の未来（三人称）単数
 licēre…<licet>の現在不定法
 licet…〔非人称動詞〕〔許されている〕〔74以下〕§934以下
 līs…〔名詞〕〔訴訟〕〔26〕§900
 līte…<līs>の単数奪格
 lītem…<līs>の単数対格
 lītēs…<līs>の複数の主格・対格
 lītī…<līs>の単数与格
 lītibus…<līs>の複数の与格・奪格
 lītīs…<līs>の単数属格
 lītium…<līs>の複数属格
 locī…<locus>の単数属格
 locō…<locus>の単数の与格・奪格
 locum…<locus>の単数対格
 locus…〔名詞〕〔場所〕〔18〕§894
 lucra…<lucrum>の複数の主格・対格
 lucrī…<lucrum>の単数属格
 lucrō…<lucrum>の単数の与格・奪格
 lucrum…〔名詞〕〔利益〕〔19〕§894、単数対格

[M]

māgna…<māgnus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 māgnā…<māgnus>の単数女性奪格
 māgnae…<māgnus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
 māgnī…<māgnus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
 māgnīs…<māgnus>の複数全性の与格・奪格
 māgnum…<māgnus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
 māgnus…〔形容詞〕〔大きい〕〔34〕§907
 māior…〔形容詞（<māgnus>の比較級）〕〔いっそう大きい〕〔45〕§914
 mājōra…<māior>の複数中性の主格・対格
 mājōre…<māior>の単数全性奪格

mājōrem…<mājor>の単数の男性・女性の対格
 mājōrī…<mājor>の単数全性奪格
 mājōribus…<mājor>の複数全性の与格・奪格
 mājōris…<mājor>の単数全性属格
 mājōrum…<mājor>の複数全性属格
 mājus…<mājor>の単数中性の主格・対格
 mala…<malus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 malā…<malus>の単数女性奪格
 malae…<malus>の単数女性の与格・奪格、複数女性主格
 malī…<malus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
 malīs…<malus>の複数全性の与格・奪格
 malō…<malus>の単数の男性・中性の与格・奪格；この形は、長音符ぬきなら、<mālō>〔選ぶ〕（〔131以下〕§989）という動詞の見出し語と同じである。
 malōrum…<malus>の複数の男性・中性の属格
 malum…<malus>の単数男性対格、複数中性の主格・対格；<malum>には「悪」を意味する名詞の形（見出し語および単数対格）もある。
malus…〔形容詞〕〔悪い〕〔34〕§907
 mātrimōnī…<mātrimōnium>の単数属格
 mātrimōniō…<mātrimōnium>の単数の与格・奪格
mātrimōnium…〔名詞〕〔婚姻〕〔20〕§894、単数対格
 mājima…<māximus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 mājimō…<māximus>の単数の男性・中性の与格・奪格
 mājimum…<māximus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
mājimus…〔形容詞（<māgnus>の最上級）〕〔もっとも大きい〕〔34〕§907
 mē…一人称単数の人称代名詞<ego>〔私〕の単数の対格・奪格
 meam…<meus>の単数女性対格
 meī…<meus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
melior…〔形容詞（<bonus>の比較級）〕〔いっそうよい〕〔45〕§914
 meliōra…<melior>の複数中性の主格・対格
 meliōrem…<melior>の単数の男性・女性の対格
 meliōris…<melior>の単数全性属格
 melius…<melior>の単数中性の主格・対格；「いっそうよく」を意味する副詞も同形である。
 meum…<meus>の単数の男性対格、単数中性主格・対格
meus…〔所有代名詞（形容詞）〕〔私の〕〔34〕§137・907
 mihi…一人称単数の人称代名詞<ego>〔私〕の単数与格

minima…<minimus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
minimīs…<minimus>の複数全性の与格・奪格
minimō…<minimus>の単数の男性・中性の与格・奪格
minimum…<minimus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
minimus…[形容詞(<parvus>(小さい)の最上級)][もっとも小さい][34]

§907

minor…[形容詞(<parvus>(小さい)の比較級)][いっそう少ない][45]

§914

minōra…<minor>の複数中性の主格・対格
minōrem…<minor>の単数の男性・女性の対格
minōrēs…<minor>の複数の男性・女性的主格・対格
minōrī…<minor>の単数全性属格
minōribus…<minor>の複数全性の与格・奪格
minōris…<minor>の単数全性属格
minus…<minor>の単数中性の主格・対格、副詞
multa…<multus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
multī…<multus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格、見出し語名詞
(複数形)[大衆]
multīs…<multus>の複数全性の与格・奪格
multōs…<multus>の複数男性対格
multōrum…<multus>の複数の男性・中性の属格
multum…<multus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格、見出し語名詞
[多数]、副詞
multus(形容詞)[多い][34] §907

[N]

nāscitur…[デーポーネンティア動詞]<nāscor>[生まれる]の現在三人称
単数(受動相)
nāscuntur…<nāscor>現在三人称複数(受動相)
nātūra…[名詞][自然][17]
nātūrā…<nātūra>の単数奪格
nātūrae…<nātūra>の単数の属格・与格、複数主格
nātūrāle…<nātūrālis>の単数中性の主格・対格
nātūrālī…<nātūrālis>の単数全性の与格・奪格
nātūrālia…<nātūrālis>の複数中性の主格・対格
nātūrālibus…<nātūrālis>の複数全性の与格・奪格
nātūrālis…[形容詞][自然の][36] §910、単数全性属格

nātūram…〈nātūra〉の単数対格

necessitās…〔名詞〕〔緊要〕〔26〕§898

necessitāte…〈necessitās〉の単数奪格

necessitātem…〈necessitās〉の単数対格

necessitātēs…〈necessitās〉の複数の主格・対格

necessitātī…〈necessitās〉の単数与格

necessitātibus…〈necessitās〉の複数の与格・奪格

necessitātis…〈necessitās〉の単数属格

negōtia…〈negōtium〉の複数の主格・対格

negōtī…〈negōtium〉の単数属格

negōtīs…〈negōtium〉の複数の与格・奪格

negōtiō…〈negōtium〉の単数の与格・奪格

negōtium…〔名詞〕〔事務〕〔18〕§894、単数対格

nēmine…〈nēmō〉の単数奪格；『辞書』（本文）でも、『新ラテン文法』§316

でも、単数奪格形は〈nūllō〉となっている。

nēminem…〈nēmō〉の単数対格

nēminī…〈nēmō〉の単数与格

nēmō…〔名詞〕〔誰も～ない〕§316

neuter (ne + uter) …〔代名詞的形容詞〕〔どちらも～ない〕〔42〕§929

neutrum…〈neuter〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格

nihil…〔名詞〕〔なにも～ない〕（§316）、副詞

nīl…〈nihil〉

nōbīs…一人称複数の人称代名詞〈nōs〉〔私たち〕の（複数の）与格・奪格

nōlet…〈nōlō〉の未来三人称単数

nōlim…〈nōlō〉の接続法現在一人称単数

nōlle…〈nōlō〉の現在不定法

nōlō…〔動詞〕〔望まない〕〔131以下〕§989

nōluissem…〈nōlō〉の接続法過去完了三人称単数

nolumus…〈nōlō〉の現在三人称複数

nōlunt…〈nōlō〉の現在一人称複数

nōmen…〔名詞〕〔名〕〔23〕§903、単数対格

nōmina…〈nōmen〉の複数の主格・対格

nōmine…〈nōmen〉の単数奪格

nōminibus…〈nōmen〉の複数の与格・奪格

nōminis…〈nōmen〉の単数属格

nōs…〔一人称（複数）人称代名詞〕の見出し語、対格

noster…〔所有代名詞（形容詞）〕〔私たちの〕〔35〕§137・138・909

nostra…〈noster〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 nostrā…〈noster〉の単数女性奪格
 nostrae…〈noster〉の単数女性の属格・与格、複数女性主格
 nostram…〈noster〉の単数女性対格
 nostrō…〈noster〉の単数全性奪格
 nostrum…〈noster〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格
 nūlla…〈nūllus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 nūllā…〈nūllus〉の単数女性奪格 (§316)
 nūllam…〈nūllus〉の単数女性対格
 nūllī…〈nūllus〉の単数全性属格
 nūllīs…〈nūllus〉の複数全性の与格・奪格
 nūllīs…〈nūllus〉の単数全性属格 (§316)
 nūllō…〈nūllus〉の単数の男性・中性の奪格、〈nēmō〉の単数の男性・女性の奪格 (§316)
 nūllum…〈nūllus〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格
 nūllus… [代名詞的形容詞] [なんらの～も～ない] [40] §549

[O]

obligant…〈obligō〉の現在三人称複数
 obligārī…〈obligō〉の受動相現在不定法
 obligat…〈obligo〉の現在三人称単数
 obligātiō… [名詞] [債務関係] [22] §901
 obligātiōne…〈obligātiō〉の単数奪格
 obligātiōnem…〈obligātiō〉の単数対格
 obligātiōnēs…〈obligātiō〉の複数の主格・対格
 obligātiōnī…〈obligātiō〉の単数与格
 obligātiōnibus…〈obligātiō〉の複数の与格・奪格
 obligātiōnis…〈obligātiō〉の単数属格
 obligātiōnum…〈obligātiō〉の複数属格
 obligātur…〈obligō〉の受動相現在三人称単数
 obligātus…〈obligō〉の見出し語完了分詞 [義務づけられた] [34] §907
 obligō… [動詞] [義務づける] [66以下] §933以下
 officiī…〈officium〉の単数属格
 officia…〈officium〉の複数の主格・対格
 officiō…〈officium〉の単数の与格・奪格
 officiīs…〈officium〉の複数の与格・奪格
 officium… [名詞] [義務] [19] §894、単数対格

omne… <omnis>の単数中性の主格・対格
 omnēs… <omnis>の複数の男性・女性的主格・対格
 omni… <omnis>の単数全性の与格・奪格
 omnia… <omnis>の複数中性の主格・対格
 omnibus… <omnis>の複数全性の与格・奪格
omnis… [形容詞] [すべての] [36] §910
 omnium… <omnis>の複数全性属格
 oportēre… <oportet>の現在不定法
oportet… [非人称動詞] [～しなければならない] [74以下] §933以下
 oportuit… <oportet>の完了（三人称）単数
 optima… <optimus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 optimā… <optimus>の単数女性奪格
 optimō… <optimus>の単数の男性・中性の与格・奪格
 optimum… <optimus>の単数男性対格、複数中性の主格・対格
optimus… [形容詞 (<bonus>の最上級)] [もっともよい] [34] §907

[P]

pacta… <pactum>の複数の主格・対格
pactiō… [名詞] [合意] [22] §901
 pactiōnibus… <pactiō>の複数の与格・奪格
 pactīs… <pactus>複数全性の与格・奪格
 pactō… <pactum>の単数の与格・奪格
pactum… [名詞] [合意] [18] §894、単数対格
pactus… デーポーネンティア動詞<paciſcor> [約束する] ([106以下] §962
 以下) の見出し語完了分詞 [約束した] [34] §907
pēior… <malus> [悪い] の比較級 [45] §914
 pējus… <pēior>の単数中性の主格・対格
 permīsit… <permittō>の完了三人称単数
 permissa… <permittō>の完了分詞<permissus> [ゆるされた] の単数女性
 主格、複数中性の主格・対格
 permissum… <permittō>の完了分詞<permissus> [ゆるされた] の単数男性
 対格、単数中性の主格・対格
 permittere… <permittō>の現在不定法
 permittit… <permittō>の現在三人称単数
 permittitur… <permittō>の受動相現在三人称単数
permittō… [動詞] [ゆるす] [82以下] §933以下
persōna… [名詞] [人] [17] §893

persōnā…〈persōna〉の単数奪格
persōnae…〈persōna〉の単数の属格・奪格、複数主格
persōnāle…〈persōnālis〉の単数中性の主格・対格
persōnālī…〈persōnālis〉の単数全性の与格・奪格
persōnālīa…〈persōnālis〉の複数中性の主格・対格
persōnālēs…〈persōnālis〉の複数の男性・女性的主格・対格
persōnālībus…〈persōnālis〉の複数全性の与格・奪格
persōnālis…〔形容詞〕〔人の〕〔36〕 §910、単数全性属格
persōnam…〈persōna〉の単数対格
persōnārum…〈persōna〉の複数属格
persōnās…〈persōna〉の複数対格
persōnīs…〈persōna〉の複数の与格・奪格
petat…〈petō〉の現在三人称単数
petere…〈petō〉の現在不定法
petī…〈petō〉の受動相現在不定法
petisset (petivisset) …〈petō〉の接続法過去完了三人称単数
petit…〈petō〉の現在三人称単数
petītiō…〔名詞〕〔請求〕〔22〕 §901
petītiōne…〈petītiō〉の単数奪格
petītor…〔名詞〕〔請求者〕〔22〕 §901
petitur…〈petō〉の受動相現在三人称単数
petō…〔動詞〕〔請求する〕〔82以下〕 §933以下
pīgnōrī…〈pīgnus〉の単数与格
pīgnorīs…〈pīgnus〉の単数属格
pīgnus…〔名詞〕〔質〕〔23〕 §904、単数対格
placet…〔非人称動詞〕〔気に入る〕〔74以下〕 §933以下
placuērunt…〈placet〉の接続法完了三人称複数
placuit…〈placet〉の完了三人称単数
plūra…〈plūs〉の複数の中性の主格・対格
plūrēs…〈plūs〉の複数の男性・女性的主格・対格
plūribus…〈plūs〉の複数の全性の与格・奪格
plūrimae…〈plūrimus〉の単数女性の属格・与格、複数女性主格
plūrimum…〈plūrimus〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格、名詞〔最多数〕（見出し語および単数対格）、副詞
plūrimus…〔形容詞（〈multus・plūs〉〔多い〕の最上級）〕〔もっとも多い〕〔34〕 §907
plūris…〈plūs〉の単数中性属格

plūs… [形容詞 (<multus>の比較級)] [いっそう多い] [46] §914、単数
中性の主格・対格

poena… [名詞] [罰] [17] §893

poenā… <poena>の単数奪格

poenae… <poena>の単数の属格・与格、複数主格

poenālibus… <poenālis>の複数全性の与格・奪格

poenālēs… <poenālis>の複数の男性・女性の主格・対格

poenālia… <poenālis>の複数中性の主格・対格

poenālis… [形容詞] [罰の] [36] §910、単数全性属格

poenam… <poena>の単数対格

poenās… <poena>の複数対格

poenīs… <poena>の複数の与格・奪格

posse… <possum>の現在不定法

possēdit… <possideō>の完了三人称単数

possessiō… [名詞] [占有] [22] §901

possessiōne… <possessiō>の単数奪格

possessiōnem… <possessiō>の単数対格

possessiōnēs… <possessiō>の複数の主格・対格

possessiōnis… <possessiō>の単数属格

possessor… [名詞] [占有者] [22] §901

possessōre… <possessor>の単数奪格

possessōrēs… <possessor>の複数の主格・対格

possessōris… <possessor>の単数属格

possessum… <possideō>の完了分詞<possessus> [占有された]の単数男
性対格、単数中性の主格・対格

posset… <possum>の接続法未完了過去三人称単数

possideat… <possideō>の接続法現在三人称単数

possidēmus… <possideō>の現在一人称複数

possidentur… <possideō>の受動相現在三人称複数

possideō… [動詞] [占有する] [74] §934

possidēre… <possideō>の現在不定法

possideret… <possideō>の接続法未完了過去三人称単数

possidet… <possideō>の現在三人称単数

possidētur… <possideō>の受動相現在三人称単数

possīmus… <possum>の接続法現在一人称複数

possint… <possum>の接続法現在三人称単数

possīs… <possum>の接続法現在二人称単数

possit…〈possum〉の接続法現在三人称単数

possum…〔動詞〕〔～できる〕〔120以下〕§986

possumus…〈possum〉の現在一人称複数

possunt…〈possum〉の現在三人称複数

posterior…〔形容詞（〈posterus〉〔後の〕の比較級）〕〔いっそう後の〕〔45〕

§914

posteriōra…〈posterior〉の複数中性の主格・対格

posteriōre…〈posterior〉の単数全性奪格

posteriōrēs…〈posterior〉の複数の男性・女性の主格・対格

posteriōrī…〈posterior〉の単数全性属格

posteriōribus…〈posterior〉の複数全性の与格・奪格

posteriōris…〈posterior〉の単数全性属格

posterius…〈posterior〉の単数中性の主格・対格、副詞

postrēmō…〈postrēmus〉の単数の男性・中性の与格・奪格、副詞

postrēmus…〔形容詞（〈posterus〉〔後の〕の最上級）〕〔もっとも後の〕〔34〕

§907

poterat…〈possum〉の完了過去三人称単数

poterit…〈possum〉の未来三人称単数

potest…〈possum〉の現在三人称単数

potestās…〔名詞〕〔権能〕〔24〕§898

potestāte…〈potestās〉の単数奪格

potestātem…〈potestās〉の単数対格

potestātī…〈potestās〉の単数与格

potestātis…〈potestās〉の単数属格

potior…〔形容詞（〈potis〉〔力のある〕の比較級）〕〔いっそう強い〕〔45〕

§914

potiōrēs…〈potior〉の複数の男性・女性の主格・対格

potissimum…〈potissimus〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格、副詞

potissimus…〔形容詞（〈potis〉〔力のある〕の最上級）〕〔もっとも強い〕

〔34〕§907

potuerit…〈possum〉の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

potuisse…〈possum〉の完了不定法

potuisset…〈possum〉の接続法過去完了三人称単数

potuit…〈possum〉の完了三人称単数

praesūmātur…〈praesūmō〉の接続法受動相三人称複数

praesūmit…〈praesūmō〉の現在三人称単数

praesūmitur…〈praesūmō〉の受動相三人称単数

praesūmō(prae+sūmō)… [動詞] [推定する] [82以下] §933以下
praesūptiō… [名詞] [推定] [22] §901
praesūptiōnem… <praesūptiō>の単数対格
praesūptiōnēs… <praesūptiō>の複数の主格・対格
praesūptiōnī… <praesūptiō>の単数与格
praesūmunt… <praesūmō>の現在三人称複数
praesūmuntur… <praesūmō>の受動相現在三人称複数
prīma… <prīmus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
prīmā… <prīmus>の単数女性奪格
prīmī… <prīmus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
prīmō… <prīmus>の単数の男性・中性の与格・奪格、副詞
prīmum… <prīmus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格、副詞
prīmus… [形容詞 (副詞<prae・prō> [前に・～の前に] に由来する形容詞の最上級)] [もっとも前の] [34] §907
prior… [形容詞 (副詞<prae・prō> [前に・～の前に] に由来する形容詞の比較級)] [いっそう前の] [45] §914
priore… <prior>の単数全性奪格
priores… <prior>の複数の男性・女性の主格・対格
priorī… <prior>の単数全性属格
prioris… <prior>の単数全性属格
prius… <prior>の単数中性の主格・対格 [45] §914 ; 副詞比較級も同形である。
prīvāta… <prīvātus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
prīvātā… <prīvātus>の単数女性奪格
prīvātae… <prīvātus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
prīvātī… <prīvātus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
prīvātīs… <prīvātus>の複数全性の与格・奪格
prīvātōrum… <prīvātus>の複数の男性・中性の属格
prīvātum… <prīvātus>の単数男性対格、単数中性主格・対格
prīvātus… [形容詞] [私的な] [34] §907
probant… <probō>の現在三人称複数
probantur… <probō>の受動相現在三人称複数
probāre… <probō>の現在不定法
probārī… <probō>の受動相現在不定法
probat… <probātus>現在三人称単数
probāta… <probātus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
probātiō… [名詞] [証明] [22] §269・901

probātiōne…<probātiō>の単数奪格
 probātiōnem…<probātiō>の単数対格
 probātiōnēs…<probātiō>の複数の主格・対格
 probātiōnum…<probātiō>の複数属格
 probātum…<probātus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
 probātur…<probō>の受動相現在三人称単数
probātus…<probō>の見出し語完了分詞〔証明された〕〔34〕§907
 probāvit…<probō>の完了三人称単数
 probet…<probō>の接続法現在三人称単数
 probētur…<probō>の接続法受動相現在三人称単数
probō…〔動詞〕〔証明する〕〔66以下〕§933以下
 prohibeātur…<prohibeō>の接続法受動相現在三人称単数
 prohibentur…<prohibeō>の受動相現在三人称複数
prohibeō (pro+hibeō) …〔動詞〕〔禁止する〕〔74以下〕§933以下
 prohibēre…<prohibeō>の現在不定法
 prohibet…<prohibeō>の現在三人称単数
 prohibētur…<prohibeō>の受動相現在三人称単数
 prohibita…<prohibitus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 prohibiti…<prohibitus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
 prohibitum…<prohibitus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
prohibitus…<prohibeō>の見出し語完了分詞〔禁止された〕〔34〕§907
 propria…<proprius>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 propriā…<proprius>の単数女性奪格
 propriae…<proprius>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
 propriam…<proprius>の単数女性対格
 proprii…<proprius>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
 propriis…<proprius>の複数全格の与格・奪格
 propriō…<proprius>の単数の男性・中性の与格・奪格
 propriōs…<proprius>の複数男性対格
 proprium…<proprius>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
proprius…〔形容詞〕〔固有の〕〔34〕§907
 proxima…<proximus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 proximā…<proximus>の単数女性奪格
 proximīs…<proximus>の複数全性の与格・奪格
 proximō…<proximus>の単数の男性・中性の与格・奪格
 proximōs…<proximus>の複数男性対格
 proximum…<proximus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

proximus… [形容詞 (<prope> [近くに] に由来する形容詞最上級)] [もっとも近い] [34] §907

pública… <pūblicus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

pública… <pūblicus>の単数女性奪格

públicae… <pūblicus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格

pública… <pūblicus>の単数女性対格

públicī… <pūblicus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格

públicīs… <pūblicus>の複数全性の与格・奪格

públicō… <pūblicus>の単数の男性・中性の与格・奪格

públicum… <pūblicus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

publicus… [形容詞] [公けの] [34] §907

pūniātur… <pūniō>の接続法受動相現在三人称単数

pūniētur… <pūniō>の受動相未来三人称単数

pūniō… [動詞] [罰する] [90以下] §933以下

pūnīre… <pūniō>の現在不定法

pūnīrī… <pūniō>の受動相現在不定法

pūnit… <pūniō>の現在三人称単数

pūnitur… <pūniō>の受動相現在三人称単数

pūniunt… <pūniō>の現在三人称複数

[Q]

quā… <quī>の単数女性奪格；疑問代名詞

quācum(n)que… <quīcum(n)que>の単数女性奪格

quae… <quī>の単数・複数の女性主格、複数中性の主格・対格；疑問代名詞

quaecum(n)que… <quīcum(n)que>の単数・複数の女性主格、複数中性の主格・対格

quaedam… <quīdam>の単数・複数の女性主格、複数中性の主格・対格

quaelibet… <quīlibet>の単数・複数の女性主格、複数中性の主格・対格

quālibet… <quīlibet>の単数女性奪格

quālis… [形容詞] [そのような] [36] §910；単数全性属格

quam… <quī>の単数女性対格；疑問代名詞、副詞

quāque… [不定形容詞] <quīque> [各々の] [62] §926の単数女性奪格

quārum… <quī>の複数女性属格

quāscum(n)que… <quīcum(n)que>の複数女性対格

— que… 近接する単語をつなぐ接続詞 [ならびに] (「および」・「また」・「そして」 とは少しニュアンスが異なる)；cf. <-ve>

quem… <quī>の単数男性対格、疑問代名詞

quemquam…<quisquam>の単数男性対格
quī… [関係代名詞・関係形容詞] [～が～するところの・その～が～するところの] [59] §923 ; 疑問代名詞
 quibus…<quī>の複数全性の与格・奪格
 quibuscum = cum+quibus…前半部の関係代名詞<quibus>は前置詞<cum>にひかれて複数全性奪格の形をとっている。
 quibuscum(n)que…<quīcum(n)que>の複数全性の与格・奪格
 quicquam(quidquam)…<quisquam>の単数中性の主格・対格
 quicquid(quidquid)…<quisquis>の単数中性の主格・対格
quīcum(n)que… [不定関係代名詞] [～するところの人は誰でも] [59・63] §923・927 ; <quīcumque>は<quīcunque>ともなる。<－cumque>の部分は不変化で、関係代名詞の<quī>の部分のみが変化する。いわば前輪駆動タイプである。cf.<quisquis>
 quid…<quis(aliquis)>の単数中性の主格・対格 ; 疑問代名詞
quīdam… [不定代名詞] [ある人] [59・63] §923・927 ; <－dam>の部分は不変化で、<quī>の部分のみが変化する。
 quidlibet…<quīlibet>の単数中性の主格・対格 [59・63] §923・927
 quidque…<quisque>の単数中性の主格・対格
 quidquid…<quisquis>の単数中性の主格・対格
 quidvis…<quīvis> [誰でも] の単数中性の主格・対格
quīlibet… [不定代名詞] [誰でも] [59・63] §923・927 ; <－libet>の部分は不変化で、<quī>の部分のみが変化する。いわば前輪駆動タイプである。cf.<quisquis>
quis(aliquis)… [不定代名詞] [誰かある人] [65] §924、疑問代名詞
quisquam… [不定代名詞] [誰でも] [64] §926 ; <－quam>の部分は不変化で、<quis>の部分のみが変化する。いわば前輪駆動タイプである。cf.<quisquis>
quisque… [不定代名詞] [誰でもすべて] [62] §926 ; 不定代名詞のこの<quisque>と不定形容詞の<quīque>は、部分的に似た形の変化をする。<－que>の部分は不変化で<quis>の部分のみが変化する。いわば前輪駆動タイプである。cf.<quisquis>
quisquis… [不定関係代名詞] [～するところの人は誰でも] [62] §794・926 ; 前の<quis>のところと後の<quis>のところが変化する(<quidquid>は<quicquid>の形をとることもある)。いわば四輪駆動タイプである。cf.<quisque>
quīvis… [不定代名詞] [どのような人であれ誰でも] [59・63] §669・923 ; <－vis>の部分は不変化で、<quī>の部分のみが変化する。いわば前輪

駆動タイプである。cf.<quisquis>

quō…<quī>の単数の男性・中性の奪格；副詞；疑問代名詞
quōcum(n)que…<quīcum(n)que>の単数の男性・中性の奪格
quod…<qui>の単数中性の主格・対格；接続詞；疑問代名詞
quodcum(n)que…<quīcum(n)que>の単数中性の主格・対格
quōdam…<quīdam>の単数の男性・中性の奪格
quodlibet…<quīlibet>の単数中性の主格・対格
quōlibet…<quīlibet>の単数の男性・中性の奪格
quodque…<quisque>の単数中性の主格・対格
quōquō…<quisquis>の単数の男性・中性の奪格
quōrum…<quī>の複数の男性・中性の属格
quōscum(n)que…<quīcum(n)que>の複数男性対格
quum=cum… [接続詞]

[R]

ratio… [名詞] [理] [22] §269・901

ratione…<ratio>の単数奪格

rationem…<ratio>の単数対格

rationēs…<ratio>の複数の主格・対格

rationī…<ratio>の単数与格

rationibus…<ratio>の複数の与格・奪格

rationis…<ratio>の単数属格

rē…<rēs>の単数奪格

rea… [形容詞] <reus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格、見出し語
名詞（女性の被告（人））

ream…<reus>の単数女性対格

rēbus…<rēs>の複数の与格・奪格

rēge…<rēx>の単数奪格

rēgem…<rēx>の単数対格

rēgis…<rēx>の単数属格

rēgum…<rēx>の複数属格

reī…<rēs>の単数の属格・与格、形容詞の<reus>の単数の男性・中性の属格、
複数男性主格、名詞の<reus>の単数属格

reī pūblicae…<rēs pūblica>の単数の属格・与格

rem…<rēs>の単数対格

rem pūblicam…<rēs pūblica>の単数対格

reō…形容詞の<reus>の単数の男性・中性の与格・奪格、名詞の<reus>の単

数の与格・奪格

rērum…<rēs>の複数属格

rēs…〔名詞〕〔物〕〔29〕§906

rēspūblica(rēs pūblica) (名詞＋形容詞) … (<pūblicus>〔公けの〕の単数女性主格)〔公けのもの・国家〕〔29・34〕§426・906・907

reum…名詞の<reus>の単数対格；形容詞の<reus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

reus…〔形容詞〕〔責のある〕〔34〕§907；〔名詞〕〔被告、被告人、債務者〕〔18〕§894

rēx…〔名詞〕〔王〕〔24〕§898

[S]

sē…〔人称代名詞＝再帰代名詞〕(<suī>〔それ自身の〕) (見出し語扱い；属格形)〔52〕§136・916)の単数・複数の対格・奪格

sēipsam…<sē>+<ipse>の単数女性対格

sēipsum…<sē>+<ipse>の単数中性の主格〔それ自体〕・対格

sēmet…<sē>+<met> (<met>は、強調の意味をこめて、人称代名詞のあとにつけられる後倚詞である)

sēnsū…<sēnsus>の単数奪格

sēnsus…<sēnsus>の単数対格

sēnsus…〔名詞〕〔意味〕〔28〕§905、<sentio>〔感ずる〕の見出し語完了分詞〔感じられた〕〔34〕§907

sententia…〔名詞〕〔判決〕〔17〕§893

sententiā…<sententia>の単数奪格

sententiae…<sententia>の単数の属格・与格、複数主格

sententiam…<sententia>の単数対格

sententiās…<sententia>の複数対格

sententiīs…<sententia>の複数の与格・奪格

sequāmur…<sequor>の接続法現在一人称複数 (受動相)

sequātur…<sequor>の接続法現在三人称単数 (受動相)

sequentur…<sequor>の未来三人称複数 (受動相)

sequerēmur…<sequor>の接続法未完了過去一人称複数 (受動相)

sequī…<sequor>の現在不定法 (受動相)

sequimur…<sequor>の現在一人称複数 (受動相)

sequitur…<sequor>の現在三人称単数 (受動相)

sequor…〔デーポーネンティア動詞〕〔したがう〕〔106以下〕§962以下

sequuntur…<sequor>の現在三人称複数 (受動相)

sēsē = sē

sibi… 人称代名詞の三人称（再帰代名詞）〈suī〉[それ自身の]（見出し語扱い：属格形）の単数・複数の与格

sibimetipsī… 〈sibi〉+〈met〉+〈ipsī〉：〈met〉は、強調の意味をこめて、人称代名詞のあとにつけられる後倚詞である：〈ipsī〉は〈ipse〉[それ自身]の単数全性・与格、複数男性主格である。

sint… 〈sum〉の接続法現在三人称複数

sīs… 〈sum〉の接続法現在二人称単数

sit… 〈sum〉の接続法現在三人称単数

sōla… 〈sōlus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格

sōlam… 〈sōlus〉の単数女性対格

sōlās… 〈sōlus〉の複数女性対格

solēbat… 〈soleō〉未完了過去三人称単数

solent… 〈soleō〉現在三人称複数

soleō… [動詞][～するのがつねである][74以下] §933以下

solēre… 〈soleō〉の現在不定法

solet… 〈soleō〉の現在三人称単数

solī… 〈solum〉の単数属格

sōlī… 〈sōlus〉の単数全性・与格、複数男性主格

solidō… 形容詞の〈solidus〉の単数の男性・中性の与格・奪格、名詞の〈solidum〉の単数の与格・奪格

solidum… 〈solidus〉の単数男性対格・単数中性の主格・対格；見出し語名詞[固体]、単数対格

solidus… [形容詞][全体の][34] §907

sōlō… 〈sōlus〉の単数の男性・中性の与格・奪格；長音符ぬきでは、〈solō〉は名詞〈solum〉の単数の与格・奪格でもある。

solum… [名詞][土地][19] §894、単数対格

sōlus… [代名詞的形容詞][ただ一つの][40] §548・930

solūta… 〈solūtus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格

solūtae… 〈solūtus〉の単数女性の属格・与格、複数女性主格

solūtiō… [名詞][弁済][22] §269・901

solūtiōne… 〈solūtiō〉の単数奪格

solūtiōnem… 〈solūtiō〉の単数対格

solūtiōnis… 〈solūtiō〉の単数属格

solūtum… 〈solūtus〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格

solūtus… 〈solvō〉の見出し語完了分詞[弁済された][34] §907

solvātur… 〈solvō〉の接続法受動相現在三人称単数

solvēns…<solvō>の見出し語現在分詞 [39] §913
solventem…<solvēns>の単数男性対格
solventur…<solvō>の受動相未来三人称複数
solvere…<solvō>の現在不定法
solveret…<solvō>の接続法未完了過去三人称単数
solvī…<solvō>の完了一人称単数、受動相現在不定法；本動詞と受動相現在不定法が同形になるのは珍しく、誤解される余地がある。
solvit…<solvō>の現在三人称単数、完了三人称単数；現在と完了で同形になる。
solvitur…<solvō>の受動相現在三人称単数
solvō… [動詞] [弁済する] [82以下] §933以下
statū…<status>の単数の奪格・与格
statum…<status>の単数対格
statuōrum…<status>の複数属格
status… [名詞] [地位] [28] §905
statūs…<status>の単数属格、複数の主格・対格
statūtī…<statūtum>の単数属格
statūtum…<statuō> [定める] ([82以下] §933以下) の完了分詞<statūtus> [定められた] の単数男性対格、中性の主格・対格；名詞 [制定法]、単数対格
sua…<suus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
suā…<suus>の単数女性奪格
suae…<suus>の単数女性の属格・与格、複数女性主格
suam…<suus>の単数女性対格
suārum…<suus>の複数女性属格
suās…<suus>の複数女性対格
succēssiō… [名詞] [承継] [22] §901
suī…<suus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格；人称代名詞の三人称（再帰代名詞）の見出し語（属格形）；名詞（複数形）[部下]
suīs…<suus>の複数全性の与格・奪格
sum… [動詞] [である・存在する] [114以下] §985
summa…<summus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格
summī…<summus>の単数の男性・中性の属格、複数男性主格
summō…<summus>単数の男性・中性の奪格・与格
summum…<summus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格
summus… [形容詞 (<superus> [上の] の最上級)] [もっとも上の] [34] §907

sumus…<sum>の現在一人称複数

sunt…<sum>の現在三人称複数

suō…<suus>の単数の男性・中性の与格・奪格

suōrum…<suus>の複数の男性・中性の属格

suōs…<suus>の複数男性対格

superior…[形容詞(<superus>[上の]の比較級)][いっそう上の][45]

§914;[名詞][勝利者]

superiōrem…<superior>の単数男性対格

superius…<superior>の単数中性主格

suprēma…<suprēmus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

suprēmā…<suprēmus>の単数女性奪格

suprēmum…<suprēmus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

suprēmus…[形容詞(<superus>[上の]の最上級)][もっとも上の][34]

§907

suum…<suus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

suus…[所有代名詞][その者自身の][34] §907

[T]

tālem…<tālis>の単数の男性・女性の対格

tālis…[形容詞][このような][36] §910、単数全性属格

tanta…<tantus>[これほど大きい]の単数女性主格、複数中性の主格・対格

tempora…<tempus>の複数の主格・対格

tempore…<tempus>の単数奪格

temporī…<tempus>の単数与格

temporibus…<tempus>の複数の与格・奪格

temporis…<tempus>の単数属格

tempus…[名詞][時][23] §314・904、単数対格

teneant…<teneō>の接続法現在三人称複数

teneantur…<teneō>の接続法受動相現在三人称複数

teneat…<teneō>の接続法現在三人称単数

teneātur…<teneō>の接続法受動相現在三人称単数

tenēmur…<teneō>の受動相現在一人称複数

tenent…<teneō>の現在三人称複数

tenentur…<teneō>の受動相現在三人称複数

teneō…[動詞][拘束する][74以下] §933以下

tenēre…<teneō>の現在不定法

tenērī…〈teneō〉の受動相現在不定法
 tenet…〈teneō〉の現在三人称単数
 tenētur…〈teneō〉の受動相現在三人称単数
 tēstāmenta…〈tēstāmentum〉の複数の主格・対格
 tēstāmentī…〈tēstāmentum〉の単数属格
 tēstāmentīs…〈tēstāmentum〉の複数の与格・奪格
 tēstāmentō…〈tēstāmentum〉の単数の与格・奪格
 tēstāmentōrum…〈tēstāmentum〉の複数属格
 tēstāmentum…〔名詞〕〔遺言〕〔19〕§894、単数対格
 tēstātor…〔名詞〕〔遺言者〕〔22〕§901
 tēstātōrem…〈tēstātor〉の単数対格
 tēstātōris…〈tēstātor〉の単数属格
 testem…〈testis〉の単数対格
 testēs…〈testis〉の複数の主格・対格
 testī…〈testis〉の単数与格（奪格）
 testibus…〈testis〉の複数の与格・奪格
 tēstimōnia…〈tēstimōnium〉の複数の主格・対格
 tēstimōnī…〈tēstimōnium〉の単数属格
 tēstimōnium…〔名詞〕〔証言〕〔19〕§894、単数対格
 testis…〔名詞〕〔証人〕〔25〕§896、単数属格
 testium…〈testis〉の複数属格
 tibi…二人称人称代名詞〈tū〉〔君〕の与格（〔52〕§915）
 tōta…〈tōtus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 tōtā…〈tōtus〉の単数女性奪格
 tōtūs…〈tōtus〉の単数全性属格
 tōtō…〈tōtus〉の単数の男性・中性の奪格
 tōtum…〈tōtus〉の単数男性対格、単数中性の主格・対格
 tōtus…〔代名詞的形容詞〕〔全体の〕〔40〕§930
 trāditiō…〔名詞〕〔引渡〕〔22〕§901
 trāditiōne…〈trāditiō〉の単数奪格
 tua…〈tuus〉の単数女性主格、複数中性の主格・対格
 tuā…〈tuus〉の単数女性奪格
 tuīs…〈tuus〉の複数全性の与格・奪格
 tuō…〈tuus〉の単数の男性・中性の与格・奪格
 tuus…〔所有代名詞〕〔君の〕〔34〕§907

[U]

ulla…<ullus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

ullā…<ullus>の単数女性奪格

ullam…<ullus>の単数女性対格

ullō…<ullus>の単数の男性・中性の奪格

ullus… [代名詞的形容詞] [いかなる人も～(ない)] [34] §548・549・

930

ultima…<ultimus>の単数女性主格、複数中性の主格・対格

ultimā…<ultimus>の単数女性奪格

ultimae…<ultimus>の単数女性の与格・奪格、複数女性主格

ultimam…<ultimus>の単数女性対格

ultimum…<ultimus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

ultimus… [形容詞 (<ulter> [向こう側の] の最上級)] [もっとも遠い] [34]

§907

ūna…<ūnus>の単数女性主格

ūnā…<ūnus>の単数女性奪格

ūnī…<ūnus>の単数全性属格

ūnīcuique…<ūnusquisque>の単数全性属格

ūnīus…<ūnus>の単数全性属格

ūnīuscūjusque…<ūnusquisque>の単数全性属格

ūnō…<ūnus>の単数の男性・中性の奪格

ūnum…<ūnus>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

ūnumquodque…<ūnusquisque>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

ūnus… [数詞・代名詞的形容詞] [一つ・一つの] [50] §931

ūnusquisque… [不定代名詞・不定形容詞] [各々・各々の] [40・50] §931・

926 ; <ūnus>のところが<quisque>のところが、それぞれ変化する。

いわば両輪駆動タイプである。もっとも、後輪にあたる<quisque>のところに注目すれば、ここでは、<quis>のところだけが変化するのので、いわば前輪駆動タイプの動きをする。

ūsū…<ūsus>の単数の奪格・与格

ūsum…<ūsus>の単数対格

ūsus… [名詞] [利用] [28] §905、<ūtor>の見出し語完了分詞 [用いた] [34] §907

ūsūs…<ūsus>の単数属格、複数の主格・対格

ūsuum…<ūsus>の複数属格

ūtātur…<ūtor>の接続法現在三人称単数 (受動相)

ūtēre…<ūtor>の命令法現在二人称単数 (受動相)

uterque… [代名詞的形容詞] [二つのうちどちらの～も] [42] §548・929 ;

<uter>のところだけが変わる。いわば前輪駆動タイプである。

cf.<quisquis>

ūtī…<ūtor>の現在不定法（受動相）

ūtile…<ūtilis>の単数中性の主格・対格

ūtīlī…<ūtilis>の単数全性の与格・奪格

ūtīlia…<ūtilis>の複数中性の主格・対格

ūtilis [形容詞] [有用な] [36] §910、単数全性属格

ūtilitās… [名詞] [有用性]

ūtilitāte…<ūtilitās>の単数奪格

ūtilitātī…<ūtilitās>の単数与格

ūtītur…<ūtor>の現在三人称単数（受動相）

ūtor [デーポーネンティア動詞] [使用する] [106以下] §962以下

utramque…<uterque>の単数女性対格

utrāque…<uterque>の単数女性奪格

utrīque…<uterque>の単数全性与格

utrumque…<uterque>の単数男性対格、単数中性の主格・対格

ūtuntur…<ūtor>の現在三人称複数（受動相）

[V]

valeant…<valeō>の接続法現在三人称複数

valeat…<valeō>の接続法現在三人称単数

valēbit…<valeō>の未来二人称単数

valent…<valeō>の現在三人称複数

valeō… [動詞] [力がある] [74以下] §933以下

valēre…<valeō>の現在不定法

valet…<valeō>の現在三人称単数

valuit…<valeō>の完了三人称単数

—ve… 近接する単語をつなぐ接続詞「もしくは」「あるいは」「または」

とは少しニュアンスが異なる）：cf.<—que>

velim…<volō>の接続法現在一人称単数

velit…<volō>の現在三人称単数

velle…<volō>の現在不定法

vellent…<volō>の接続法未完了過去三人称複数

vēndere…<vēndō>の現在不定法

vēnditiō… [名詞] [売却] [22] §269

vēnditiōne…<vēnditiō>の単数奪格

vēnditiōnem…<vēnditiō>の単数対格

vēnditiōnibus…<vēnditiō>の複数の与格・奪格
vēnditiōnis…<vēnditiō>の単数属格
vēnditor…〔名詞〕〔売主〕〔22〕§901
vēnditōrem…<vēnditor>の単数対格
vēnditōrī…<vēnditor>の単数与格
vēnditōribus…<vēnditor>の複数の与格・奪格
vēnditōris…<vēnditor>の単数属格
vēndō…〔動詞〕〔売る〕〔82以下〕§933以下
verba…<verbum>の複数の主格・対格
verbī…<verbum>の単数属格
verbīs…<verbum>の複数の与格・奪格
verbō…<verbum>の単数の与格・奪格
verbōrum…<verbum>の複数属格
verbum…〔名詞〕〔言葉〕〔19〕§894
vī…<vīs>の単数の奪格（与格）
videant…<videō>の接続法現在三人称複数
vidēbis…<videō>の未来二人称単数
vidēbitur…<videō>の受動相未来三人称単数
videō…〔動詞〕〔見る〕〔74以下〕§933以下
videntur…<videō>の受動相現在三人称複数
vidērī…<videō>の受動相現在不定法
viderit…<videō>の直説法未来完了三人称単数・接続法完了三人称単数
videt…<videō>の現在三人称単数
vidētur…<videō>の受動相現在三人称単数
vīm…<vīs>の単数対格
vir…〔名詞〕〔夫〕〔20〕§895
vīrēs…<vīs>の複数の主格・対格
virī…<vir>の単数属格・複数主格
vīribus…<vīs>の複数奪格
virīs…<vir>の複数の与格・奪格
virō…<vir>の単数の与格・奪格
virōrum…<vir>の複数属格
virtus…〔名詞〕〔力〕〔24〕§895
virum…<vir>の単数対格
vīs…〔名詞〕〔力〕§315
volō…〔動詞〕〔望む〕〔131以下〕§989
voluerit…<volō>の直説法未来完了三人称単数、接続法完了三人称単数

voluī…〈volō〉の完了一人称単数
 voluisse…〈volō〉の完了不定法
 voluit…〈volō〉の完了三人称単数
 volumus…〈volō〉の現在一人称複数
 voluntās…〔名詞〕〔意思〕〔24〕§898
 voluntāte…〈voluntās〉の単数奪格
 voluntātem…〈voluntās〉の単数対格
 voluntātēs…〈voluntās〉の複数の主格・対格
 voluntātī…〈voluntās〉の単数与格
 voluntātis…〈voluntās〉の単数属格
 vult…〈volō〉の現在三人称単数

II 前置詞一覧

1° 前置詞は、もともと副詞と深い関係にあるので、近代欧米語流の厳密な品詞観でもって両者を峻別し、これにむかいあう、というのはあまり合理的ではない。具体的な表現に対して、ゆるやかで、アバウトなとらえかたをしていくのが、適切なやりかたである。ところで、ラテン語の前置詞の場合、近代欧米語の場合ほど意味が限定されてはいないので、具体的な文脈のなかで正しいニュアンスをとらえていくのは決してたやすいことではない。このようなむずかしい状況は、程度の差はあるが、各詞などの格形のそれぞれがはらんでいるニュアンスの差をきちんと見分けていくさいに遭遇する困難さの場合と同じようなものである（このことは、多義的な奪格支配の前置詞の場合に、とくにあてはまる）。それから、とくに〈in〉（英語・独語の〈in〉と同じようなもの）のように、奪格支配か対格支配かで意味がかなりちがうことにも注意して頂きたい（独語の場合、〈in〉が三格支配なのか、四格支配なのかで、意味にちがいが生ずるのと似たような表現が、ラテン語において見られる）。それから、もっとも重要な奪格支配の前置詞（独語の三格支配の前置詞と部分的に似かよっている）にはアンダーラインをひいておくことにする。対格支配の用法もあわせもついくつかの重要な前置詞の場合についても、同様である。

2° 前置詞は、以下に採録したもので、ほぼすべてである。このなかには、近代欧米語の語形のなかに、ラテン語表現の場合と同形ないしはそれとよく似た形が存在している前置詞のケース、また、たまたますでに日本人によく知られているケース、などがあつたりすることから、以下のリストをたよりに前置詞全体を眺めて頂ければ、前置詞というものがそれほど難物

でないことがすぐにお判り頂けると思われるが、いかがであろうか。なお、後に示す<grātiā>・<locō>・<nōmine>・<causā>は、それぞれ名詞<grātia>・<locus>・<nōmen>・<causa>の単数奪格の形である。しかし、これが、名詞などの属格とセットになると、それぞれがもっていた、「恩恵」・「場所」・「名前」・「原因」といった本来の意味はうすれて、前置詞のような、いわば軽いニュアンスを示すことがある。うっかりして二つの語を切りはなして読みこんでしまうと、これらが別のところにかかるなどして、読みがかなりちがったものとなってくるので、要注意である。

ā(ab)	<u>奪格支配</u> ：から、より、によって、において、で、以来、のために、について、に対して ※<a>は母音からはじまる
ad	対格支配：へ、の方へ、に向かって、の近くへ、に、にしたがって、とくらべれば、にかんして、によって ※日本語の「アドバルーン・アドホック」の「アド」
adversus	対格支配：に反して、の方へ、に対して、に面して、に向かって ※日本語の「ヴァ（バ）ーサス」
ante	対格支配：まえへ、まえに、まえで、以前に、をこえて ※<a.m.(ante meridiem)>の<a.>
apud	対格支配：の近くに、において、の面前で、のそばに、のもとで、の著書で、のあいだで
causā	もともとは<causa>〔原因〕の単数奪格形：名詞などの属格のあとにこれがくると、「のために」、「にかんして」、「の点において」などの意味になる。一種の後置詞である。ちなみに、ラテン語にはドイツ語の二格支配に対応するような属格支配の前置詞はない。
circā	対格支配：の付近に、のまわりに、ころ、ほぼ、にかんして
circum	対格支配：の付近に、のまわりに、の方で、でたがい
cis	対格支配：こちら側に、以内に
citrā	対格支配：こちら側に、以内に、のまえに、以来、なしに
contrā	対格支配：向こう側に、に対して、に向かって、に反して、に逆らって
cōram	<u>奪格支配</u> ：の面前で、に直面して
cum	<u>奪格支配</u> ：とともに、を備えて、と同時に、で、をもって、のなかで：この<cum>は、法律ラテン語では重要な役割を演ずる接続詞であるが、前置詞でもある（辞書には、前置

	詞については<prep.c.abl. [奪格とともに用いられる前置詞]>と表示され、接続詞については、別項で<conj.>と表示されている。) なお、接続詞としての<cum>は、<quum>と表記されることもある。
dē	<u>奪格支配</u> ：から、から下へ、について、のあいだに、のために、にしたがって、にかんして
ē(ex)	<u>奪格支配</u> ：から、のなかから外へ、より、以来、のために、にしたがって、で ※<ē>は母音からはじまる名詞のまえでは用いられない。<ē regiōne>・<ex memoria>
ergā	<u>対格支配</u> ：に面して、にくらべて、に対して、のために、にかんして、にくらべて
extrā	<u>対格支配</u> ：の外に、外側へ、をこえて、をのぞいて、なしに ※日本語の「エキストラ」
grātiā	もともとは名詞<grātiā> [好意] の単数奪格形：名詞などの属格のあとにこれがくると、「のために」などの意味になる。一種の後置詞である。
in	<u>奪格支配</u> ：に、において、のなかに、の上に、にかんして、にもかかわらず／ <u>対格支配</u> ：のなかへ、の上へ、に向かって、のために、に対して
īnfrā	<u>対格支配</u> ：の下に、以後 ※日本語の「インフラ」
inter	<u>対格支配</u> ：の中に、のあいだに ※日本語の「インターナショナル」の「インター」
intrā	の内側に、へ、までに、の限度内で
jūxtā	<u>対格支配</u> ：の近くに、に接近して、のつぎに、にもとづいて、にしたがって、約
locō	もともとは名詞<locus> [場所] の単数奪格形：名詞などの属格のあとにこれがくると、「のように」、「として」などの意味になる。一種の後置詞である。
nōmine	もともとは<nōmen> [名] の単数奪格：名詞などの属格のあとにこれがくると、「の原因で」、「のために」などの意味になる。一種の後置詞である。
ob	<u>対格支配</u> ：にさからって、にむかって、のために、のまえに、とひきかえに
per	<u>対格支配</u> ：を通って、を通じて、のあいだ、によって、のために、から、の方法で ※日本語の「パーセント」の「パー」
post	<u>対格支配</u> ：のあとに、以後、のつぎに ※<p.m. (post

	meridiem) >の<p.>
prae	奪格支配：のまえに、にくらべて、に対して、のために
praeter	対格支配：のそばを、のまえを、の向こうへ、を過ぎて、をのぞいて、に反対して、のほかに
prō	奪格支配：のまえで、の上に、のかわりに、のように、に対して、として、のために、によって ※ 日本語の「プロボノ（公共の利益のための〔弁護士の活動〕）」の「プロ」
prope	対格支配：の近くに、ころ、に接して
propter	対格支配：の近くに、のために、にしたがって
quōcum = cum quō	<cum>は前置詞で、<quō>は関係代名詞<quī>の単数奪格形（男性・中性）である。前置詞の位置が後になっている。 ※ <cum quō>は英語の前置詞つき関係代名詞<with whom ; with which>のような構造のものである。
secundum	対格支配：にそって、と同時に、にしたがって、のつぎに、のために
sine	奪格支配：なしに
sub	奪格支配：の下に、の下で、にしたがって、のころに、のもとに／対格支配：の下へ、直後に
super	奪格支配：の上に、のさいに、について／対格支配：の上へ、をこえて、のあいだに、のころに、より以上に ※ 日本語の「スーパー」
suprā	対格支配：をこえて、の上に、の上へ
trāns	対格支配：をこえて、の向こうに、を通って、をよぎって ※ 日本語の「トランス」
ultrā	対格支配：以上に、をこえて、のかなたに ※ 日本語の「ウルトラC」

III 接続詞一覧

1° 近代欧米語の文法では、接続詞と副詞は区別して考えられるのがふつうであろうが、ラテン語では、その境い目はかならずしもはっきりしていない。文法書（たとえば『新ラテン語文法』）では、<ergō> [コギトー・エルゴー・スム] の「エルゴー」[それ故に] は「推断的（conclusive）な等位接続詞」という扱いになっているが、一方、『羅和辞典』では、<adv.=adverb> [副詞] と表示されている。そのようなわけで、この一覧で

は、品詞の区別にはあまりこだわらずに、採録を行なうことにした。

2° 接続詞のなかには、代名詞の一つの変化形が独立して接続詞の役割をはたすようになったものがある。〈quō〉[それによっていっそう～するために]は、〈quī〉[～が～するところの～]という関係代名詞が男性・中性の単数奪格に展開したかたちであるが、これが進化し(?)、独立の不変化詞としての接続詞の役割をはたすこととなった。ついでながら、その単数中性主格形の〈quod〉の方も、「ので」や「こと」などを意味して、法律ラテン語では重要度の高い接続詞となっている。こういうとき、文章全体の構造のなかで、変化詞としてその意味を動きのなかでくみとるのか、それとも、不変化詞として独立の意味をくみとるのか、よく考えてみなければならない。とくに、さきの〈quod〉について言えば、順序としては、関係代名詞(単数中性の主格か対格)の可能性をまず検討し、もし先行詞にあたる言葉の性と数にマッチしなかったり、ほかに主語や対格がちゃんとあったりすれば(もっとも、同格のケースでは同じ格が二つ登場するので、要注意である)、ひとまず関係代名詞の線をすてて、つぎに、文章論からすれば格上の接続詞ととらえる方向にむかって頂くことになるだろう。

3° 品詞論にこだわらず、文章と文章とを接続する言葉としての「接続詞」の性質それ自体に着目して考えてみると、——かなり、高級な用法に属するものであるが——〈quī〉[～が～するところの～]という関係代名詞に、接続詞のニュアンスをはらませる、という重要な用法が浮上してくる。それは、関係代名詞にひかれた関係節が、前あるいは後にある主文に対して、意味の上で、目的・傾向、結果、原因、譲歩といった、少しねじれた感じのあるかわりかたをしている場合で、その関係節の動詞部分には、接続法という含みのある法が登場することがふつうである。逆に言えば、関係節の本動詞が接続法に展開していれば、この用法のことを頭において調べる必要がある、ということになる。かなり難解な命題であるが、一つの例をあげよう。〈Peccāsse mihi videor, quī ā tē discesserim.〉これを直訳すると、「君のところから(ā tē)たちさった(discesserim)(ところの)[私が]誤まりを犯した(peccāsse)ように、私には思える(mihi videor)。」くらいになるが、こういう読みではこの一文のニュアンスはきちんととらえられていないであろう、「私が君を見すててしまった以上(からには)、私は自身が誤まりを犯したのだと思う。」とか、「私は誤まりを犯したと思う。なぜならば、私は君を見すてたからだ。」とかいうように、「見すてたこと」と「誤まりを犯したこと」を「原因」と「結果」という前後関係におく読みが必要となってくるのである。このとき、主格形の関係代名詞である〈quī〉は、〈cum〉[ので]という接続詞のように読みこんでいかなければならない。ちなみに、日本語でも、「よく勉強する(ところの)彼女は

つもよい成績をとる。」というくだりは、暗黙の了解として、「よく勉強するから、好成绩をのこせるのだ。」という読みにもなっているのではなからうか。

4° 接続詞は、以下に採録したものでほとんどすべてである。とりわけ法律ラテン語で重要なものには、アンダーラインをひいておこう。

5° 以下のVの「相関語一覧」のところにも、接続詞のくみこまれたパターンが多く含まれる。

ac(atque)	そして、さらに、とくに、また、しかも、と同時に、 ところが、そこで、に、そこに、と ※ ac (atque) が二つの名詞などをつないでいるとき、そこに、たん なる並列ではなく、いわば主従の関係がなりたつこと がある。たとえば<religiō ac fidēs>は、直訳すれば、 「良心と誠意」であるが、「良心的な誠意」というよう に、名詞が形容詞のような役割をする。
an	あるいは～か
antequam	～よりまえに、～よりさきに
at	しかし、だが、それでも、ところで
atquī	しかし、だが、それでも
attamen	しかし、だが、それでも
<u>aut</u>	あるいは、または、それどころか、それでも、そうで なければ
<u>autem</u>	しかし、そのうえ、さらに、も、ところで ※ 英語な どの場合とはちがって、<autem>は文頭にはおかれな い。
cēterum	それどころかまた、そのうえに、しかし、だが、それ でも ※<cēterum>は、「エトセトラ (et cētera)」に 見える<cētera>の仲間で、<cēterus>[他の]の単数中 性の主格・対格と単数男性の対格の形でもある。
<u>cum</u>	のときに、するたびに、以来、するやいなや、ので、 たとえ～であつても、する一方で ※<cum>は前置詞 の形でもある。
cum prīmum	するやいなや
dōnec	するまで、するかぎり、のあいだ
<u>dum</u>	するかぎり、するまで、のときのみ、もし～ならば
dummodo	もし～ならば
<u>enim</u>	なぜならば、すなわち、たとえば、実際に ※ 英語な

enimvērō
ergō
et

etenim
etiam
etiāmsī
etsī
ideō
igitur

itaque
licet

modo
nam(namque)
nam nōn
nē
nec(neque)
neque enim
neque
enimvērō
neque tamen
neque vērō
nī
nisi(sī nōn)

どの場合とはちがって、<enim>は文頭にはおかれない。

しかし、だが、それでも
したがって、それ故に

そして、同時に、したがって、反対に、しかし、あるいは ※<et>は言葉の並列（そして、しかし、そうすれば）を示すモデル的接続詞であるが、ラテン語の読み解きのさいには、この接続詞が表に出てこなくても、それが存在しているようにして、文脈を構成する必要もある。たとえば、有名な<Vēnī, vīdī, vicī.>について言えば、「(私は) きた、見た、勝った。」が直訳であるが、「(私は) きて、見て、勝った。」というように、<et> [それで・それから] ぶくみの訳にしてみるようなものである。

なぜならば、たしかに
も、さえも、そのほかに、さらに

たとえ〜であっても
たとえ〜であっても

したがって、そのために

したがって、要するに、それ故 ※英語などの場合とはちがって、<igitur>は文頭にはおかれない。

そしてこのようにして、そこで、したがって
にもかかわらず、たとえ〜であっても ※<licet>には、「許されている」という非人称構文をつくる重要な用法もある。

〜すれば、〜の場合にのみ

なぜなら〜だから、つまり、たしかに、これに対して

なぜなら〜ないから

しないように、ことを

も〜ない、そして（しかし）〜ない

なぜなら〜ないから

しかし〜ない、それでも〜ない

enimvērō

しかし〜ない、それでも〜ない

しかし〜ない、それでも〜ない

もし〜でないならば

もし〜でないならば、をのぞいて

nōn enim	なぜなら～ないから
nōn	～だけでなく～もまた
modo(sōlum)	
～ sed(vērūm)	
～ etiam	
nōn modo ～ sed	～ないだけでなく～さえも～ない
nē ～ quidem	
<u>postquam</u>	のときに、以来、である以上は
proinde	それ故、だから
prout	に应じて、のように
quamdiū	～するかぎり
quamobrem	そのために、それで
quamquam	たとえ～としても；～ではあるが、しかし
<u>quamvis</u>	たとえ～としても
<u>quandō</u>	するときに、ので
quāpropter	そのために
quārē	そのために
<u>quasi</u>	あたかも～のように
-que	ならびに、つまり、そのために、しかし、あるいは ※ <que>は、たとえば<sēnātus populusque Rōmānus = SPQR> [元老院、ならびに、ローマの国民] という ように<populus> [国民] という名詞のあとにくつつ いてでてくる変わり者である（意味の上からすると、 <populus>のまえに位置するはずであるが）。なお、<-ve> も同じタイプの動きをする。法律ラテン語でとくに重要な術語的表現は<domī militiāque>で、これは 「家でも戦場でも」とか「平時においても戦時においても」とか訳されるが、特殊な意味では、「市域でも軍域でも」というニュアンスになる。あのカエサル（シーザー）は、軍域と市域の境界線として法制上設定されているルビコーン川を軍をひきいてこえ、あえて反逆者となったのである。
<u>quia</u>	というのは、なぜならば、ので
<u>quin</u>	（ない）ことを、ことを
quin etiam	それどころかまた、そのうえに
quō	それによって、いっそう～するために、そのためにま すます ※<quī>という関係代名詞の一変化形である。

<u>quod</u>	のために、ので、の場合は、にかんすること、ということ
<u>quodsi</u>	※<quī>という関係代名詞の一変化形である。
<u>quōminus</u>	またもし、しかしもし
<u>quonjam</u>	ことを
quoque	ので、それで、にしたがって
quoūsq̄ue	も
quum	まで
<u>sed</u>	= cum
<u>sed tamen</u>	しかし、やはり
seu	しかし、それでも
simul	= sive
<u>simul atque</u>	同時に
<u>(atque,ut),</u>	～するやいなや
<u>simul ac</u>	
sīn	しかしもし
<u>sive(seu)</u>	あるいはもし
tamen	しかし、やはり、それにもかかわらず
<u>tametsī</u>	たとえ～でも、それにもかかわらず
<u>tamquam</u>	あたかも～のように
ubi	のときに、～するたびごとに、～するやいなや
ubi primum	するやいなや
<u>ut(uti)</u>	～することを、～するために、～するように、～する とき、～するやいなや、以来、その結果として～ので、 たとえ～しても
ut(uti) nē	～しないように
ut(uti) primum	～するやいなや
ut sī	あたかも～のように
-ve	もしくは、あるいは ※ さきの<-que>の場合と似た ような動きをして、語末にくる)
<u>vel</u>	あるいは、さえも、たとえば
velut sī	あたかも～のように
vērō	しかし、たしかに ※ 英語などの場合とちがって、 <vērō>は文頭にはおかれない。
vērūm	しかし、むしろ、ほんとうに
vērūm tamen	しかし、それでも

IV 副詞一覧

1° もし、<quasi>という言葉が「あたかも～のように」という意味で用いられているなら、これは接続詞であり（さきの辞典には<conj. = conjunction>と記されている）、「ある程度、ほぼ」という意味で用いられているなら、これは副詞（その辞典には<adv.>と記されている）であることが端的に示しているように、副詞と接続詞の間柄も実に微妙である。それぞれの文法書や辞書のあいだで、品詞へのはめこみがかならずしも一致していない。訳す側としては、品詞問題（タテマエ論）などにはこだわらず、とにかく、頭をやわらかくしながら、訳の現場において日本語スタイルで適訳をつけていけば、よい。

2° 近代欧米語では、副詞と形容詞は、少しちがったかたちをしていることが多いのでわかりやすいが（それでも、<Think different.>の表現に見られるように、両者の区別があいまいになっているところもあるように見られる）、一方、ラテン語では、注意が少し必要となってくる。たとえば、副詞の比較級が、ふつう、形容詞の中性単数対格および主語の形と同じ形になる関係で（§378）、読み解きの順序からすると、まずそれを形容詞と考えることから作業をはじめて頂くことになるだろう。そのあたりのことは、用例の一部（<893>を参照）について、※印のあとに指摘しておいた。なお、最上級の方は<maximē>のように<ē>で終わってくれるので、比較的わかりやすい。ついでに言えば、この<ē>の語尾は、<ō>とともに副詞によく現われるものである。しかし、<ē>というように長音符がついた状態でなく、たんに<e>となっていれば（ふつう、書物ではこういう表記のしかたになっている）、名詞や形容詞の語尾の<e>や<o>と同じになってくるので、問題の言葉が副詞であることは、すぐにはつきとめられない。その点で、<iter>とか<tim>とかの語尾は、副詞であることをきれいに示してくれていて、助かる（後出の<generāliter>・<passim>）。

3° 品詞論からはなれて、用法の観点から見ると、形状は形容詞なのに、意味は副詞的にとらえる方が自然であるケースのあることにふれておく必要がある（このところ流行している「すごい美しい」という表現は、「すごく美しい」の意味であるが、形容詞と副詞の境い目はわが日本語においてもついにぼやけてきたのであろうか）。一例をあげると、<Primus veniēbat.>を「彼は、第一の人として（primus）、やってくるのがつねだった（veniēbat）。」と読めば形容詞の直訳であるが、ふつうの読みでは、「彼はいつも一番にやってくるのだった。」というように、副詞的にうけとめら

れることとなろう。[B] 部門の「索引」([P] 部門) の項目に「形容詞の訳しかた」というものがあるので、その索引をたよりに具体的な用例にあたって頂きたい。

4° 代名詞的形容詞や形容詞の一変化と副詞の形とが同じになるケースがあるが (<alius> [他の] に由来する<aliās>が前者の例で、<vērus> [真の] に由来する<vērō>が後者の例である)、こういったとき、両方の可能性を考えてみたうえで、結論をださなければならない。

5° 形容詞の数だけ副詞があることになる関係で、以下のリストは副詞のほんの一部である。それでも、法律ラテン語の命題によく登場するものは、できるかぎりひろうようにはしてある。

āctīvē	能動的に
adhūc	ここまで、なお、さらに ※<ad hoc>はこれと似て異なるものである。
admodum	まったく、十分に、少なくとも
aequē	ひとしく、公正に
affirmātīvē	肯定的に、肯定する側で
aliā	他の経路で
aliās	他の方法で、ほかに、他の場合に
alibī	他の場所で ※これは、「アリバイ（不存在証明）」として、立派な日常の日本語となっている。
aliōquīn	そうでなければ、そのほかに、ともかく
aliquandō	ときには、かつて
aliquātenus	いくらか
aliter	他の方法で、他の場合には
aliunde	他のところで
amārē	厳しく ※長音符がついていないふつうの表現になると、これは<amō> [愛する] という現在不定法と同形になる。
ambiguē	あいまいに
amplius	さらに、より以上に
anteā	より以前に
andāc(i)ter	大胆に
apertē	明らかに
bene	よく、大いに
benīgnē	寛大に、ゆるやかに
bis	再度、二度、二重に

breviter	簡潔に
castē	良心的に、信心ぶかく
cāsū	偶然に ※ 名詞<cāsus>〔不慮の出来事〕の単数奪格の形
certē	確かに
certō	正確に ※ 上の<certē>は副詞語尾に特有の形であるが、この<certō>の<o>は形容詞の変化語尾の形でもある。
cēterum	そのほか
citō	速く
civīliter	民事上、民事的に、ていねいに、ひかえめに、市民らしく
clam	秘かに、秘密に、隱秘に
clārē	明らかに
collēgiāliter	ともに、結合して
commodē	適切に、適宜
commūniter	共通に、共同で
cōnsequenter	それにしたがって
cōnsultō	意図して
continuō	直ちに
contrā	逆に、反対に、さからって
cōram	公けに、面前で
crēbrō	しばしば
crīmīnāliter	刑事的に
dext(e)rā	右に
dext(e)rē	巧みに ※<dext(e)rē>は副詞に特有の形であるが、上の<dext(e)rā>は形容詞の変化語尾の形にもある。
dīligenter	注意深く、入念に、勤勉に
dīrēctō	真直ぐに
diū	日中に、長く、ずっと以前に
dūdum	少し前に
dulce	楽しく
dumtāxat	厳密に言えば、たんに、少なくとも
ergō	したがって、それゆえに ※「コーギトー・エルゴー・スム」のエルゴー
etiam	さえも、なおまた
ēvidenter	明らかに

exāctē	正確に
extrīnsecus	外から
facile	安易に、容易に ※<facilis> [容易な] の単数中性主格・対格の形
ferē	ほとんど、一般に
forte	偶然に、おそらく ※<fors> [運命] の単数奪格の形
frūstrā	無益に（～しても無益（無効）である）、根拠なしに
generāliter	一般に
generātīm	一般に、種別に
gradātīm	徐々に、だんだんと
grātīs	無償で ※名詞<gratia> [恩恵] の複数の与格・奪格の形
haud	まったく～ない
honestē	誠実に、立派に、豊富に
ibī	そこに、そのとき
idcirco	そのために、それゆえに
īdem	同様に
ideō	そのために、それゆえに
impūnē	罰せられずに、自由に、（～しても）罰せられない
incautē	不注意に
incontinentī	直ちに
inde	そのために、それゆえに
īndependenter	独立的に
indistīnctē	不分明に
inīquē	不正に
injūriōsē	不法に
injūstē	不正に、不公平に、不公正に
īnsimul	同時に
īnsufficienter	不十分に
interdum	ときには
invicem	相互に
ita	このように、そのように、それくらい
item	同様に、また
iterum	再び、再度、他面
itidem	同様に
jam	すでに、いまや
jūdiціальiter	裁判上

jūre	正当に、～するのは正しい ※<jūs> [正] の単数奪格の形
jūstē	正当に、正しく、公正に
lātē	広く
lēgitimē	適法に、合法的に、正しく、正当に
leviter	軽く
līberē	自由に
magis	むしろ、より以上 ※<māgnopere> [おおいに] の比較級の形
male	悪く、不当に、過度に
manifēstē	明瞭に、明白に、とくに、だいたい
māximē	大いに、とりわけ ※<māgnopere> [おおいに] の最上級の形
meditātē	意識して、熟慮して
melius	よりよく ※<bene> [よく] 比較級の形
merē	純粹に、単独に、まったく
meritō	正当に、～するのは正当である
minimē	最も少なく、決して～なく ※<nōn multum> [少し] の最上級の形
minus	より少なく ※<nōn multum> [少し] の比較級の形
miserē	みじめに、あわれにも
modicē	少し
modo	たった今
mox	すぐに、つづいて
multō	はるかに
multum	多く、しばしば、おおいに ※ 形容詞<multus> [多い] の単数中性の主格・対格の形
nātūrālīter	当然に、本性上
nē	なく（ない）
nē quidem	～でさえ～でない
necessāriē	必然的に
necessāriō	必然的に、やむをえず
negātivē	否定的に、否定する側で
nēquāquam	決して～ない
nihil(nīl)	まったく～なく（ない） * 日本語の「ニヒル・ニヒリズム」
nīhilō	少しも～なく

nihilōminus	それにもかかわらず
nimiō	はるかに
nīmīrum	確かに
nimis	あまりに、非常に
nimium	= nimiō
nōminātim	とくに、一つずつ、指名して
nōn	ない、なく
nōndum	まだ～ない
nōnnumquam	ときには
nūllibī	どこにも～ない
nūllimodo	いかなる方法でも～なく
numquam (nunquam)	決して～なく（ない）
nunc	今
nūper	最近
ōlim	かつて
omnimodō	あらゆる方法で、まったく
omnīnō	まったく、一般に、たしかに、わずかに
optimē	最もよく
paene	ほとんど
palam	公然と、明らかに、公けに
passim	いたるところに
passīvē	受動的に、無秩序に
paulātim	徐々に、個々に
perfectē	完全に
perinde	同様に
perpetuō	永遠に、安易に
perquam	非常に、極端に
persaepe	非常にしばしば
perspicuē	明らかに
plānē	明白に
plēnē	十分に、まったく
plēnissimē	とても広く ※<plēnē> [十分に] の最上級の形
plērumque	一般に、たいてい
plūrimum	最も多く、たいていは ※<multum> [多く] の最上級の形
plūs	いっそう多く ※<multum> [多く] の比較級の形

post	のちに、事後に
postea	その後
potissimum	とくに、主として ※<potis> [能力のある] の最上級の形
potius	よりむしろ ※<potis> [能力のある] の比較級の形
prae	前に
praecise	かんたんに、絶対に
praesertim	とくに
praesto	有益に、用意して、その場で
precario	容仮的に
pridem	ずっと以前
pridie	前日に
primo	まず
primum	まず、第一に ※形容詞<primus> [第一の] の単数中性対格の形
prius	以前に
priusquam	より以前に、よりむしろ
promiscue	無差別に、無分別に
prope	近くに
proprie	独自に
prorsus	十分に
prosperè	幸いに
providè	慎重に、用心ぶかく
proximè	最も近く ※<prope> [近くに] の最上級の形
prudenter	賢く、慎重に、巧妙に
publicè	公けに
pulchrè	美しく
purè	単純に
quā	どこかに、ひょっとして
qualiter	同様に
qualiter cumque	どのようにでも
qualiter qualiter	どのようにしてでも
quam	よりも、できるだけ
quandō	いつ
quantum	だけ、の限り
quasi	ほとんど、ほぼ
quemadmodum	のように

quidem	確かに、まったく、少なくとも、たとえば
quippe	確かに、もちろん、なぜなら
quo	～のために
quoad	まで、限り
quōdammodo	ある程度
quondam	かつて
quoque	も
quotannīs	毎年
quotīdiē	毎日
quotiēns	たびごとに
quotiēnscumque	どれほど回数が多くても
rārē	まばらに
rārō	稀に ※上の<rārē>は副詞語尾の形であるが、この<rārō>は形容詞の変化語尾の形でもある。
rēctā	真直ぐに ※<rēctā>は形容詞の変化語尾の形でもある。
rēctē	正しく、有効に
rēgulātim	通常は、規則にしたがって
repentīnē	突然に、不意に、にわかに
retrō	後へ、逆に ※日本語の「レトロ」
rīte	方式にしたがって、正當に
saepe	しばしば
saepenūmerō	しばしば
satis	十分に
scīlicet	つまり、明らかに、了解のうえで
semel	一度、同時に、はじめて
semper	つねに
sērō	おそく
sevērē	厳しく
sīc	このように
sicut	のように、いわば
simul	同時に
simulātē	まねをして
sollemniter	形式どおりに、習慣的に
sōlum	だけ
sōlummodo	だけ、まったく、単独に
speciāliter	とくに、特別に

speciātim	特別に
sponte	自発的に、自力で、ただ
statim	直ちに ※<im>の語尾は、一見したところ、副詞特有の語尾のようであるが、名詞の対格語尾（ am 、 em 、 um ）と関係がある。
strictē	厳密に、厳格に、正確に
suffICIENTer	十分に
tacitē	黙って、秘かに、暗黙のうちに
tam	このように
tamen	それでもやはり、しかし、しかし少なくとも
tamquam	いわば～のように
tantum	ただ～だけ、この程度に
tantummodo	ただ～だけ
tantundem	ちょうど同じだけ
tardē	おそく、ゆっくりと
temerē	理由なく、偶然に、無計画に
tenāciter	頑固に
tōtāliter	全然、全体として、全体的に
tum	そのとき
tunc	そのとき、やがて
tūtō	安全に、たしかに ※<tūtus>〔安全な〕の単数中性奪格の形
ubīque	どこでも
ulterius	さらに向うに、それ以上に
ultrā	あなたに
unquam	いつか、かつて
ūsque	までずっと、たえず
utique	たしかに、とくに、とにかく、まったく
utrimque	両方から、両側に
utrum, ~ an	～であるかあるいは～であるか
variē	さまざまに
velutī(velut)	あたかも
vērē	正しく、真に、正当に
vērō	しかし、確かに、本当に ※上の<vērē>は副詞語尾の形であるが、ここの<vērō>は形容詞の変化語尾の形でもある。
versus	面して

vice	代わりに、として
vicissim	交代で、再び、他方で
vidēlicet	つまり
vix	ほとんど～しない、かろうじて
vixdum	やいなや
voluntariē	任意に
vulgō	一般に、広く、公然と ※<vulgus> [大衆] の単数奪格の形

V 相 関 語 一 覧

相 関 語 というのは、たがいにペアを組んで文章（多くの場合、主文と従属文）などをまとめあげている語群のことで、その多くは辞書にもちゃんと収録されているが、それでも、よく似たものもかなり多くあって、これらはなかなか判りにくい代物である（この手のものは近代欧米語にももちろん存在するので、それをマークして処理するさいの手順にしたがって対応して頂ければよい）。以下のリストは、完璧ではないが、それでも、とくに法律ラテン語を読み解いていくさいに注意が必要となるようなものは、かなりひろったはずである。

adeō nōn ~ ut… あまり～しないので

adeō ~ ut… ほど～な

aequē ~ atque(ac, et, quam)… 同じように

aliter ~ quam… とは異なって

alius ~ quam… とは異なる

aptus ~ quī… するのに適した

atque ~ atque… も～も；と同様にまた

aut ~ aut… あるいは～、あるいは；も～も；か～か、そうでなければ

contrā ~ atque(ac, quam)… とは反対に

contrārius ~ atque(ac)… とは反対の

cum ~ cum… も～も

cum ~ tum… も～も；でもあるが一方～、であるがまた；であるのとひとしく同様に

dīgnus ~ quī… するのに適した

dīversus ~ atque(ac)… とは違って

eā ~ quā… する、そこをへて

eō ~ quia(quod)… のために、そのために

eō ~ quō… そこで～する、その場所で（へ）
 et ~ et… も～も；一部は～、一部は
 et ~ neque… 確かに～であるが、しかし～ない
 et ~ que… も～も
 etsī ~ tamen(at, nihilō minus)… にもかかわらず、やはり
 haud perinde quam… というよりはむしろ
 hoc ~ quod… というこのことは（を）
 ibī ~ ubī… するところのそのところで
 īdem ~ atque(ac, et)… 同じ
 īdem ~ quī… 同じ
 idcirco ~ quia(quod)… ので、そのために
 idcirco ~ ut… するために、そのために
 idoneus ~ quī… するのに適した
 ille ~ hīc… 前者は～後者は～
 in eō esse, ut… まさに～しようとしている（こと）
 inde ~ unde… から～するところの、そこから
 is ~ quī… ～するその人が～する、そのような
 ita(sic) ~ ut(uti, sicut, quōmodo, quemadmodum)… のように、と同様
 に、の条件で ※<ita>と<ut>の位置関係が逆になった<ut ita>は、
 比較構文の特殊な用法（法律ラテン語命題にもちゃんと存在する）
 として、「～であるけれども～」というような相反的な意味もある。
 意味が逆になってしまうこともあるので、要注意である。「辞書」
 の<ut>の3（bb）の項目を参照。
 item ~ atque(ac)… 同じように
 item ~ ut… のように；と同じように
 jam ~ jam… あるときには～、あるときには～
 magis ~ quam… よりもむしろ
 modo ~ modo ~ … あるいは～、あるいは～；あるときには～、ある
 ときには～
 multī ~ quī… するような多くの人が
 nē ~ quidem… 決して～ない；～でさえ～ない
 nec ~ nōn… そしてたしかにまた
 nēmō ~ quī… するような者は誰も～ない
 neque aut ~ aut ~ … しかも、でもなく、～でもない
 neque ~ et… 一方～でないが、他方で～でなくてむしろ
 neque(nec) ~ neque(nec)… も～も～ない；でないのと同様にまた～で
 ない

nihil aliud ~ nisi(quam)… 以外の何物でもない；にほかならない
 nōn magis quam… 同じ程度に；というよりはむしろ
 nōn minus quam… と同様に
 nōn secus ~ atque(quam)… と同様に
 nōn ~ sed… ではなくて、～
 nōn sōlum(modō, tantum), sed(etiam, quoque)… ～だけではなく、～も
 nōn tam ~ quam… というよりもむしろ～
 nunc ~ nunc… あるときには～、あるときには～
 ob eam causam quia(quod)… ～のために、そのために
 ob hanc causam quia(quod)… ～のために、このために
 pār ~ atque(ac)… とひとしい
 pariter ~ atque(ac)… と同じように
 paucī ~ quī… するようなわずかの人が
 perinde ~ atque(ac, ut)… と同じように
 plūs ~ quam… よりも多く
 potius ~ quam… よりはむしろ
 primum ~ deinde… まず～、つぎに～
 prō eō ~ ut… のかぎりで
 proinde ~ ac sī… あたかも～のように
 propterea quia(quod)… のために、そのために
 propterea ut… するために
 quantō ~ tantō… であればあるほど、それだけますます
 —que ~ —que… も～も；一部は、～一部は～
 quō ~ eō… であれば、それだけますます
 secus ~ atque(ac)… とは違って
 sīc ~ ut… ～ほど、それほど～；～と同様に
 similis ~ atque(ac, ut)… と似た
 simul atque(ac, ut)… と同時に
 simul ~ simul… 一方では～、他方では～；と同時に；同時に～も～も
 sive(seu) ~ sive(seu)… あるいは～であれ、あるいは～であれ
 tālis ~ quālis… のような、このような ※<tālis>も<quālis>も形容詞
 なので、状況におうじて語尾変化する。
 tam ~ quam… ほど～；と同様に；と同じように
 tam ~ quī… ほど～な
 tam ~ quīn… ないほど～な
 tam ~ quot… だけ～な
 tamdiū ~ quamdiū… ほど、長いあいだ；だけのあいだ

tantō ~ quantō… するだけ、それだけ
 tantopere ~ quantopere… ほど、はなはだしく；～と同じように
 tantum ~ quantum… だけ、それだけ
 tantus ~ quantus… ほど、それほど多い；だけ、それだけ
 tantus ~ ut… だけ、それだけ
 tot ~ quot… ほど、それほど多く；～と同じだけ多くの
 totiēns ~ quotiēns… ほど、しばしば；～するたびに
 tum ~ cum… も、～も；でもあり、～でもある；するときに、そのと
 きに
 tum ~ tum… あるいは～、あるいは；あるときは～、あるときは～
 ut ~ ita… のように、そのように ※<ita ~ ut>の項目を参照。
 utrum ~ an… か、それとも～か
 vel ~ vel… か、～か
 vix ~ cum… するやいなや、～する

VI <ut>の慣用句一覧

辞書の詳細な説明からすぐ察して頂けるように、<ut>の意味は実に多様である（英語の<that>、独語の<daß>、仏語の<que>、伊語の<che>にも同じようなことがてはまるが）、ここでは、法律ラテン語でとりわけ重要な、非人称的な用法と結びついた<ut>の例をとくにあげておこう。このような構文がすばやくとらえられれば、以後の読み解きはうんと楽になる。

efficit	]	ut……	[ということに] なる；[という] 結果が生ずる
efficitur			
fit			
sequitur			
necesse est	]	ut……	[ということは] 必然的である；[ということは] 当然である
oportet			
opus est			
ūsus est			
decet	]	ut……	[ということは] ふさわしい
accidit			
contingit	]	ut……	[ということが] 生ずる
ēvenit			
fit			
ūsū venit			

faciō	}	ut …… [とということに] する
fieri potest		ut …… [とということが] おこりうる
accēdit		ut …… [とということが] 加わる
relinquitur	}	ut …… [とということが] 残る ; [とということ] ~だけで (が) ある ; まだ~しなければならない
reliquum est		
rēstat		
superest	}	ut …… [とということが] 慣例である
mōs		
(cōnsuētūdō)		
est		

VII 非人称構文一覧

天然現象や感情をあらわす非人称動詞は比較的わかりやすいので、これらについては、ここでとくにとりあげる必要もなかろう。ここでは、とりあえず、それ以外の、論理的な文章において登場してくる構文例だけを収録した。なお、非人称的な構文には、非人称動詞を用いないものもいくつかある（後出の<pūgnātur>や<pūgnandum est>など）。ところで、もし、この種の、非人称のスタイルの、いわば乾いた構文をはやく発見できれば、文脈がかんたんにとらえられるが、しかし、その存在に気づかないでいると、大変な苦労を強いられるのは確実である。それに、この構文に、与格・属格のような斜に構えた格もからんできたり（たとえば、<intersum>〔重要である〕系の<interest>が属格をとる例（〔B〕部門<1385>以下）、難物の対格不定法（これについては〔B〕部門<35>の説明を参照）ががっちりと組みこまれたりすることもしばしばあるので、いよいよ構文のとらえかたがむずかしくなる。

accidit… 起る ; 生ずる

appāret… 明白である（対格不定法系：以下、辞書に<acc.c.inf.>〔不定法をとともなう対格〕と明示されている場合のみをひろって、この欄に示す）

attinet… 関連がある ; 大切である（対格不定法系）

bonum(optimum) est… よいこと（もっともよいこと）である

certus est… 確かである（対格不定法系）

cōnstat… 知られている ; 一致している ; 確定している

contingit… 起る ; 生ずる

decet… ふさわしい（対格不定法系）

dēdecet… ふさわしくない；不適當である
ēvenit… 起る；生ずる
fās est… 正当である；当然のことである（対格不定法系）
hūmānum est… 人のつねである
interest… 関係がある；重大である（対格不定法系）
libet… 気に入る；好ましい
licet… 許される；許されている（対格不定法系）
mōs(mōris) est… 習慣である
necesse est… 必要である；必然的である；不可避である（対格不定法系）
nefās est… 許されない
oportet… 必要である；要する；しなければならない（対格不定法系）
opus est… 当然である；必要である；義務がある（対格不定法系）
placet… 気に入る；[という] 見解がある；是認する（対格不定法系）
placuit… [というのが] 有力説（通説）である（対格不定法系）
praestat… 勝っている
pudet… 恥ずかしく思う
pūgnandum est… 戦わなければならない（「戦われなければならない」ではない） ※<est>と動形容詞（他動詞・自動詞）の中性単数形との組合せも、非人称的表現の一つとして用いられる。
pūgnātur… 戦われる（戦闘がある） ※自動詞の受動相であるが、これが完了（「戦闘があった」）なら、<pūgnātum est>というように、完了分詞のところは中性単数形になる。これは非人称的表現の一つに属する。
rēfert… 関係がある；重大である（対格不定法系）
rēstat(superest)… 残っている
rūmor(fāma) est… [という] 噂である
stat per aliquem, quōminus(quīn, nē)… はある人の責任である
superest… 残っている
tempus est… するべき時である
ūsus est… 必要である
vidētur… [と] 思われる；[と] 見られる；[と] みなされる

VIII 絶対的奪格用例一覧

いくつかの格のなかで、奪格というものは、もっとも広がりやふくらみ

が大きく、難解なのであるが、そのなかに、絶対的奪格という、とっつきにくい用法がある。この絶対的奪格の基本パターンは、「名詞」と、動詞の色あいをとどめながらもその名詞を形容する役割をもつ「分詞」との組み合わせであるが、前半部分の名詞のかわりに「代名詞」が、そして、後半部分の分詞のかわりに「形容詞」や第二の「名詞」までがそれぞれくることがあるので、パターンがいよいよ複雑になって、見きわめが難しい。この一覧表では、意味のうえで主語にあたるもの（名詞・代名詞）が前半に登場するケースが多くなっている（もちろん語順は自由なので、それは書き手のたんなる好みの問題にすぎないが）。

基本パターンの構成部分に相当する分詞には、完了分詞（受動的なニュアンス）と現在分詞（能動的なニュアンス）の二手がある。一覧表では、実線のアンダーラインが完了分詞を、そして、点線のアンダーラインが、現在分詞を、それぞれ示すものとする。アンダーラインがまったくつけられていない用例は、もっとも識別のむずかしい、「名詞（代名詞・名詞化した分詞など）プラス名詞（形容詞）型」である（たとえば、<mē iudice>）。古典ラテン語には<sum>[である]に現在分詞（ēns）が欠けているために、<ēns>が表にでてこられず、その動詞部分を欠いたまま、形容詞や名詞だけが目立ってしまうから、そのようになるのである。なお、ここに付けられた訳は、直訳調のたんなる一例であって、訳しかたには、ヴァラエティーが多くある。完了分詞の用例では、本来の受動的なニュアンスを前面にだして訳すよりも、能動的に訳していくスタイルが、とりわけ受動相的表現が好まれない日本語では、理屈にかなっているし、また自然でもある。たとえば、<levātō vëlō>は「帆をあげて」であって、ふつうは、「帆があげられて」というような原語に忠実なスタイルにはなっていない。以下の試訳では、だいたいこのところ、そのような扱いになっている。もちろん、受動相的表現のままのものもある。

以上は、絶対的奪格という、少しこみいった用法に関係する話であるが、そのほかに、単純に、名詞の奪格に形容詞がかかっているもの、と読むことが必要な場合も生じてくる。そのいくつかをあげておこう。<culpā grviōre> [いっそう重大な過失のために]（このところを絶対的奪格と読めば、「過失がいっそう重いので」となる。以下（ ）内はその手の訳である）、<duōbus litigantibus> [二人の係争〔者〕に]（二人が争っているあいだに）、<mē invītō> [いやがる私から]（私が望んでいないのに）、<nōbis quoque peccātōribus> [罪人である私たちにも]（私たちも罪人であるからには）、<paucīs verbīs> [少ない言葉でもって]（言葉が少ないにもかかわらず）、<sēdibus incertīs> [不確定な所在地に]（所在地が不明なので）、<reō absente> [不在の被告に]（被告人不在のために）。

特別な形をもつ、デーポーネンティア動詞の完了分詞は、ふつうの動詞の場合とはちがって、能動的なニュアンスをはらんでいるので、絶対的奪格のような複雑な構造枠を用いる必要はない。たとえば、<medicus variis remediis ūsus>は、「さまざまな治療法を駆使した医師は」というように、すんなりと読みこめる。<ūsus>はデーポーネンティア動詞<ūtor>の完了分詞（用いた）である。<medicus>は「医者」を意味し、<variis>は<varius> [さまざまな] の複数中性奪格で、<remediis>は、<remedium> [治療法] の複数奪格である。<ūtor> [用いる] は奪格をひくので、<variis remediis> となっているわけである。一方、ふつうの動詞を用いると、<variis remediis adhibitis>（さまざまな治療法が用いられて）という絶対的奪格のパターンがあらわれてくる。<adhibitis> [利用する] は、ふつうの動詞<adhibeo> [用いる] の完了分詞 [用いられた] の用例なのである。

※一つ一つの単語に文法的解説をつけたりすると、あまりにも読みづらいので、直訳調の訳をつけるだけにしている。読者の方々が、それを手がかりとして、独力で文法情報を読みきって頂ければ、幸いである。

adversante et repugnante nātūrā 自然が、あらがい、また、さからっているにもかかわらず

aere (aliēnō) dēductō （他人の）金（債務）を控除したうえで

bellis cīvīlvus compositis 内乱を鎮圧した後に

capite dēmissō 頭をたれて

causā cōgnitā 事情を審理してから

causā sublātā 原因がとりさられたにもかかわらず

cēssante causā 原因がやめば

ceteris paribus 他の [事情] が同じであれば

correctis corrigendis 訂正する必要がある [こと] を訂正したうえで
※<corrigendis>は、動形容詞が名詞化したものの変化形である。

これはよく知られた表現である。

culpā graviōre 過失がいっそう重いので

duobus litigantibus 二人が争っているあいだに

dūrate itinere 旅行が継続しているあいだは

dūrate matrimōniō 婚姻が継続しているうちは

eō sequente それが継続しているかぎり ※<mē iudice>・<nōbis peccātōribus>・<quō dictō>も、代名詞を軸にした構文である。

fōrmā mūtātā 形式を変更して

frātre adjuvante 兄弟が助けてくれるので

impedimentō remōtō 障害を除去したうえで

lēgibus salvīs 法律が健在〔である〕かぎりは
levātō vēlō 帆をあげて
līte pendente 訴訟係属中に
mātre invitā 母が反対していても
mātrimōniō solūtō 婚姻解消後
mē jūdice 私を判断者とすれば（私の判断では） ※<eō sequente>・
 <quō dictō>・<nōbīs peccātōribus>も、代名詞を軸にした構文で
 ある。
mūtātā ratiōne lēgis 法律の理が変更されると
mūtātīs mūtandīs 変更する必要のある〔こと〕は変更したうえで ※
 <mūtandīs>は、動形容詞が名詞化したものの変化形である。これ
 はよく知られた表現である。
mūtātō nōmine 名義をかえて
nātūrā dūce 自然を導き手とすれば（自然の導きにしがうなら）
nēmine contrādīcente 反対する者が誰もいないので
nōbīs peccātōribus 私たちが罪人であるときにも ※<quō dictō>・
 <mē jūdice>・<eō sequente>も、代名詞を軸にした構文である。
nūllō hoste prohibente いかなる敵の妨害もうけず
parte inauditā 当事者を聴聞せずに
paucīs verbīs 言葉が少ないにもかかわらず
pendente līte 訴訟が係属しているあいだは
paucīs dēfendentibus わずかの〔人〕しか防衛しない状況で
pecūniā āmissā 金銭を失なったのちに
praescriptīs verbīs 文言が前置されたときに
praesentibus N.N N.N氏たちの面前で
quō dictō そして、それを言うとき ※<eō sequente>・<mē jūdice>・
 <nōbīs peccātōribus>も、代名詞を軸にした構文である。<quō>
 は、いわゆる「継続的用法」の関係代名詞が組み込まれた難例で
 ある。
rēbus (sic) stantibus 事情が（このように）あるかぎりは ※日本語に
 「事情変更の原則」という重要な術語があるが、これに上記のラ
 テン語がそえられることが多い（もっとも、直訳調なら、「事情不
 変更の原則」となるが）。
salvō errore 過失を留保して
sedente animō 心をきめて
societāte manente 組合の存続中に
solūto mātrimōniō 婚姻解消後に

sublātō tēstāmentō 遺言が無効とされると

reō absente 被告人が不在なので

tūtōre auctōre 後見人を助成者として

urgente necessitāte 緊要にせまられて

vice versā 位置を逆にまわしたうえで（逆に） ※よく知られた表現で
ある。

volente Deō 神が望むかぎり

※以上のリストにおいて示してあるパターン以外に、さきiの〔B〕部門に収録された、3855個のなかにも、かなりの数の絶対的奪格の構文の例が収められている。その最初のケースは、〈22〉で、その最後のケースは〈3815〉である。